

A-dec 500

サービスガイド



目次

ここから始まる	2
ボックス1:チェアー、フットスイッチ、フロアボックス	4
ボックス2:正面取付部	11
ボックス3:デリバリーシステム	15
ボックス4:ウォーターボトルとマニホールド	19
ボックス5:サポートリンク	24
ボックス6:サポートアーム ..	26
ボックス7:歯科助手用器具 ..	31
ボックス8:サポートセンターとスピットン	32
ボックス9:モニターマウント ..	36
ボックス10:歯科ライト	40
最終段階	47
タッチパッドのコントロール ..	54
規制に関する情報	68



注意 カバーを取り外したり交換したりする場合は、配線を損傷しないように注意してください。交換したカバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。



注 本書では、正しく安全に設置するために重要な情報は、この注のように背景色付きで示されています。

はじめに

本文書にはA-dec 500システムの設置方法が記載されています。

図1. A-dec 500システム



ここから始まる

個別の取り付けについてはこの文書に記載されているすべてのコンポーネントを必要とします。始める前に：

- 時間をとってどのモジュールがあるのかを見極めてください
- 製品梱包箱に設置順序を示す番号が印刷されています (図2を参照)。
- A-dec 300モジュールまたはA-dec 400モジュールがシステムに含まれる場合は、そのモジュールの梱包ボックスに順番号が印字されないことに注意してください。そのモジュールを500システムに取り付け可能であるときは、このサービスガイドに指定があります。

設置手順

製品梱包箱の適切な配置は組立工程を早めます。製品梱包箱に印刷されている番号にしたがって、組み立て順にモジュールを並べます。表1に、製品梱包箱の番号と含まれているモジュールを示します。それぞれの製品梱包箱には部品番号及び簡単に見分けが付くよう部品名が記載された写真付の部品リストが同梱されています。

図2. 梱包箱の番号は設置順序に対応



(A) ボックス番号

表1. ボックス内容物

ボックス番号	モジュール
1	チェアー、フロアボックス
2	正面取付部アーム
小型ボックス3 (ボックス2内に収納)	正面のモニターマウント
大型ボックス3	デリバリーシステム
4 (ボックス2内に収納の場合あり)	ウォーターボトル、マニホールド
5	サポートリンク
6	サポートアーム
7	歯科助手用器具
8	スピットン
9	サポート側モニターマウント
10	歯科ライト

効率よく組み立てを完了するには：

1. 最初のボックス (チェアー) を開梱します。
2. ボックス内のすべてのパーツを組み立てるには指図書に従います (他に別段の指図のない限り)。
3. 順序にしたがって次のボックスを開梱します。組み立てに次のボックスが必要でないときは、そこにあるその次の番号へ進みます。
4. すべてのボックスを開き切るまで作業を続けます。
5. 平行調整をし、その他の調整をし装置のプログラムを行って作業を終了します。

サイトレディネス

開始の前に：

- 手動空気遮断弁及び水遮断弁の取り付けを確認します。
- 空気および水ラインからすべての残屑を一掃してください。
- お住まいの地域の建物/規格管理機関に設置要件を確認してください。設置要件は州ごとにまた国ごとに違います。

表2. 推奨する工具

- | | |
|---|-------------------------------|
| • 19.05ミリ (3/4")、7.9375ミリ (5/16")、11.1125ミリ (7/16")、23.8125ミリ (15/16") のスパナ | • スナップリングツール |
| • SAEソケットスパナ | • ラジオペンチおよび標準ペンチ |
| • 可動レンチ | • 斜ニッパー |
| • 六角レンチセット | • 小口径ワイヤー用ワイヤーストリッパー |
| • 水準器 | • 回転ハンマードリル |
| • 19.05ミリ (3/4") ドリルビット | • 12.7ミリ (1/2") コンクリート用ドリルビット |
| • 3.175ミリ (1/8") ボール六角ドライバー | • アンビリカルスネーク |
| • 標準プラスドライバー #1および #2 | • ほうきの柄 (サポートセンターの設置に使用) |
| • 静電気除去リストストラップ | |



注 モジュールの包装を解くときに、同梱されている医師用のキット (固形物収集器スクリーン、シリンジ先端部など) に注意してください。設置作業中はこれらのキットを取り除けておいてください。

ボックス1:チェア、 フットスイッチ、フロア ボックス



注 床の構造を確認します。床材の厚さが82ミリ(3 1/4")に満たないときは、床の補強について認可を受けている建築請負業者に連絡してください。

チェアを移動する

1. チェアを開梱しますが運送用ストラップは外さないでください(図4を参照)。
2. 座部フレーム(またはチェアリフターツール)を使ってパレットからチェアを取り外します。チェアを適切な場所に設置します。



注意 アームレストを引いたり押したりしてチェアの位置合わせをしようとしてはいけません。

3. 運送用ストラップを外します。
4. 電源コードを差し込み、チェアの電源をオンにします。

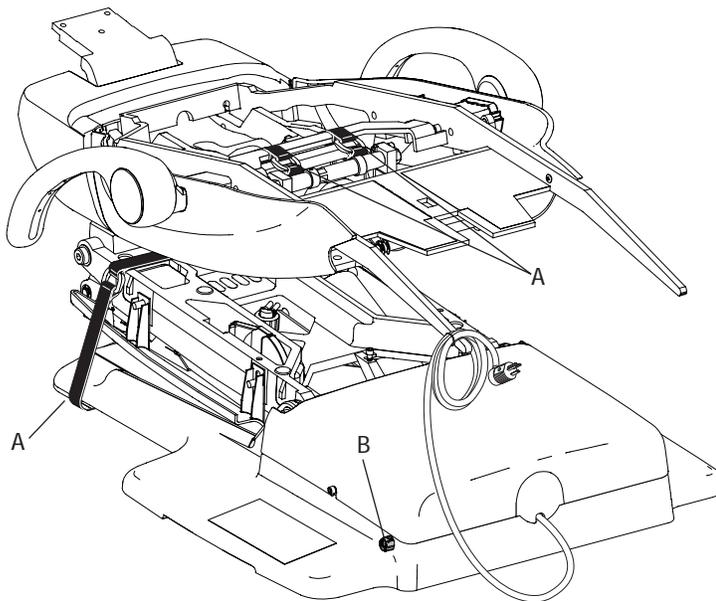


注 電源オン/オフボタンはチェアのベースプレートにあります。ボタンが押し込まれている場合、システムに電源が入っています。このボタンが外に出ている場合、システムに電源は入っていません(図4を参照)。

図3. 511チェア



図4. チェアをパレットから移動する



(A) 運送用ストラップ、(B) 電源オン/オフボタン

運送用のピンを取り外す

チェアから運送用のピンを取り外すには、チェアを持ち上げる必要があります。

1. チェアを持ち上げるには、3タップ機能を使用します。
 - (1) チェアの右側にある停止プレートを3回軽く叩き、3回目はプレートを押したままにします (図5を参照)。
 - (2) チェアの座部と背もたれが完全に上へ上がるまで押し続けてください。



注 チェアの背板を一番下まで下げるには、ストッププレートを3回叩き、3回目はプレートを押したままにします。

上がっている場合は、タッチパッドまたはフットスイッチを取り付けてチェアのベースを下げる必要があります。

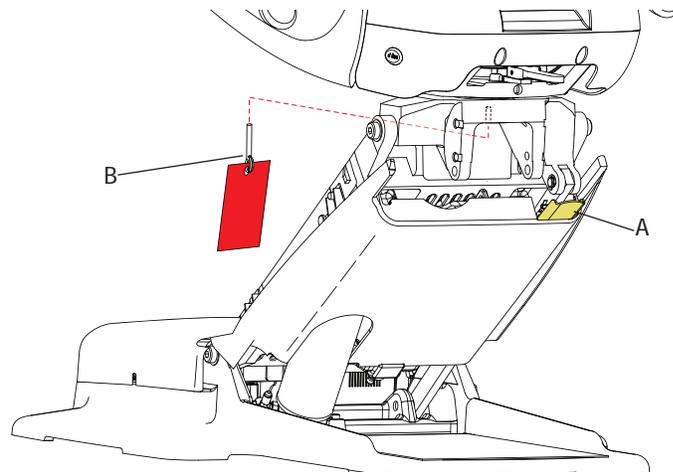
タッチパッドまたはフットスイッチを取り付けると、3タップ機能が無効になります。

- (3) 運送用のピンをしっかりと握り真下に引き下ろします (図6を参照)。



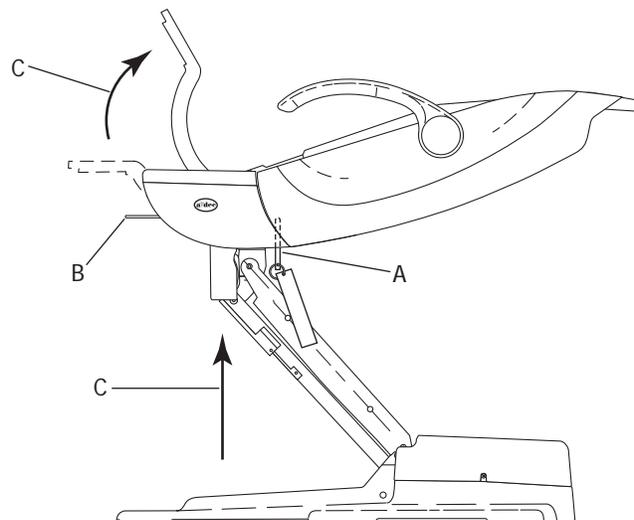
ヒント ピンを引き抜くため旋回ブレーキを緩める必要があるかもしれませんが、チェアを回転させたくない場合は、運送用のピンをそのままの位置に残しておいてください。

図5. チェアを上昇させる



(A) チェア停止プレートを3回叩き押さえる、(B) 運送用のピン

図6. 運送用のピンを取り外す



(A) 運送用のピン、(B) 旋回ブレーキ、(C) チェアを上げ背もたれを立てる

チェアを床にしっかり固定する



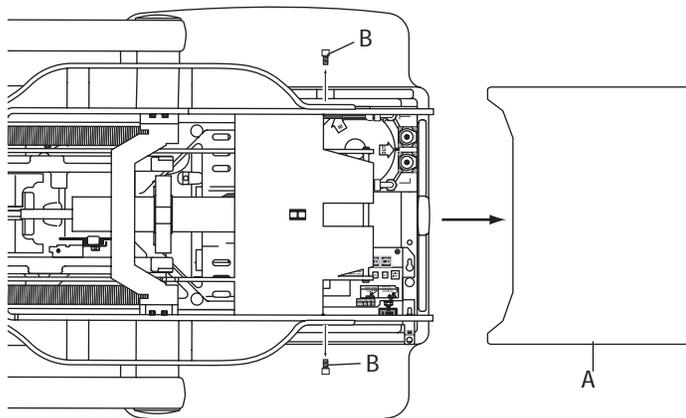
警告 機械力学的安定性を確保するため、チェアを床にしっかり固定します。床へのチェアの固定が適切でない場合は、器物の破損や怪我、死亡事故につながる危険があります。

1. ポンプカバーを取り外します (図7を参照)。
2. チェアの座部フレーム左右に回転するよう旋回ブレーキを緩めると椅子の固定用穴に確実に到達できます (図8を参照)。



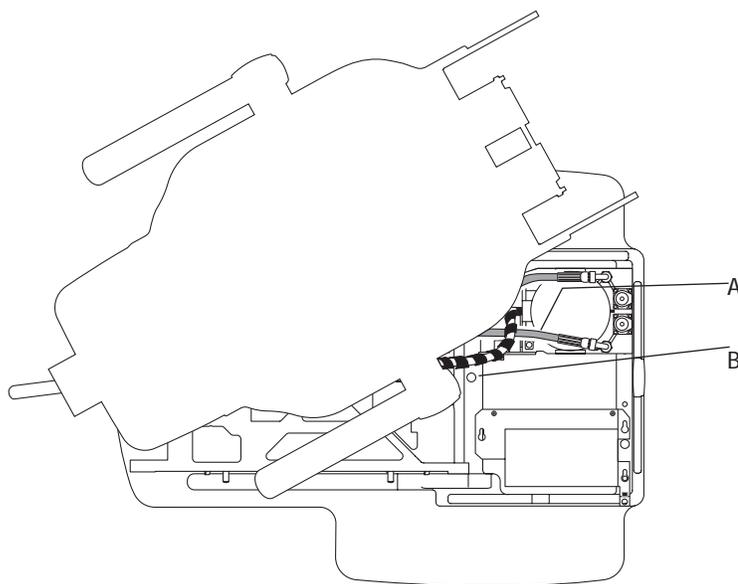
注意 固定用穴付近にある油圧ラインを損傷しないよう注意してください。

図7. ポンプカバーを取り外す



(A) ポンプカバー、(B) カバーネジ

図8. チェアを回転して固定用穴を露出する



(A) 油圧ライン、(B) 固定用穴

3. チェアを固定します。

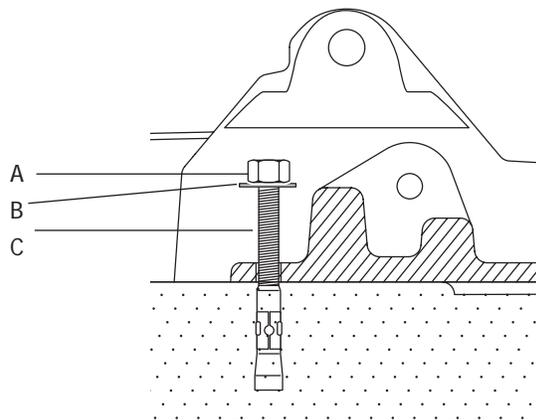
コンクリートに固定する場合：

- (1) 101ミリ (4") の深さの穴をあけます。チェアの固定用穴を通してコンクリートに穴をあけます。回転ハンマードリルを使用します。
- (2) 残屑を取り除きます。
- (3) ボルトヘッドがチェア座部に完全に固定されるまで固定ボルトを穴にねじ込みます。
- (4) ワッシャーに対してきつく締まり、床にベースプレートがしっかり固定するまでボルトを締めます (図9を参照)。

木部に固定する場合：

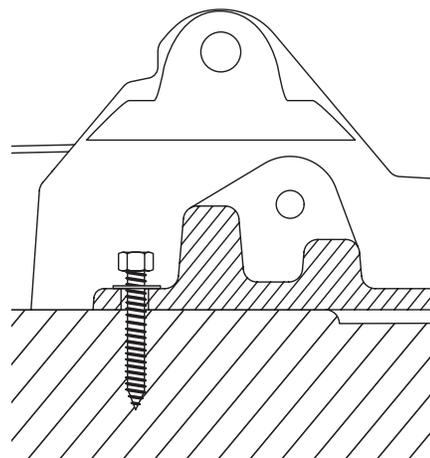
- (1) 50ミリ (2") の深さの穴をあけます。9.5ミリ (3/8") ドリルを使用します。
- (2) 残屑を取り除きます。
- (3) 固定ボルトにワッシャーを装着し穴に挿入します。
- (4) ワッシャーに対してきつく締まり、床にベースプレートがしっかり固定するまでボルトを締めます (図10を参照)。

図9. アンカーチェア—コンクリートの床



(A) ボルトヘッド、(B) ワッシャー、(C) 固定ボルト

図10. アンカーチェア—木の床



フットスイッチを取り付ける



注 構成によっては、歯科ユニットにフットスイッチが含まれない場合があります。ボックス1にフットスイッチが収納されていない場合は、次の手順、9ページの「背板サポートを取り付ける」に進みます。

1. チェアの電源をオフにします。



危険 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、感電する恐れがあります。



警告 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、装置に損傷を与えたり、死亡を含む人身事故を起こす恐れがあります。

2. チェアのリフトアームの下部を經由し、張力緩和ブラケットを通るようにフットスイッチケーブルを配線します(図12を参照)。配線を容易にするには張力緩和ブラケットネジを緩めてください。



注意 回路基盤は静電気による損傷を受けやすい部品です。回路基盤に触れる場合、あるいは回路基盤への接続または回路基盤からの接続を行う場合は、静電放電(ESD)対策が必要です。回路基盤の取り付けは、必ず電気技師または適切な資格を持った整備担当者が行ってください。

3. フットスイッチケーブルを回路基盤に接続し、張力緩和ネジを締めます。

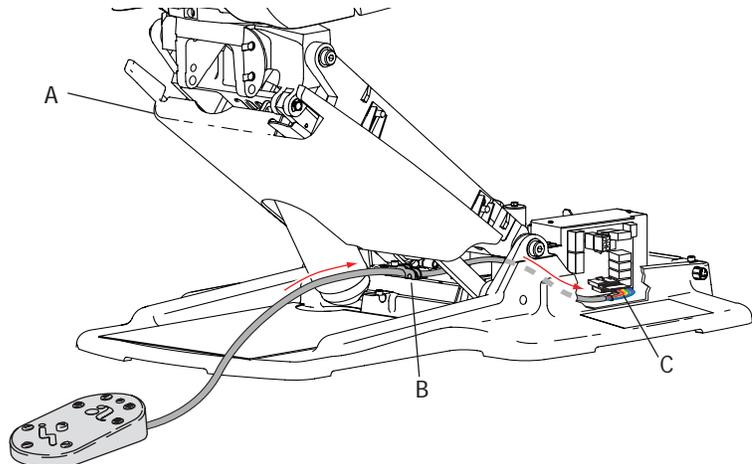


注 システムにフットコントロールが付属している場合(ボックス4に収納)、フットコントロールを取り付けるまで張力緩和ネジは締めないでください。

図11. フットスイッチ



図12. フットスイッチケーブルを配線する



(A) チェアのリフトアーム、(B) 張力緩和ブラケット、(C) 回路基盤接続

背板サポートを取り付ける

1. チェアの背板サポートから3本の取り付けネジを外します。
2. チェアの背面に取り付けネジで背板サポートを取り付けます (図13を参照)。



ヒント 締め込む前に3本のネジをすべて緩めてください。

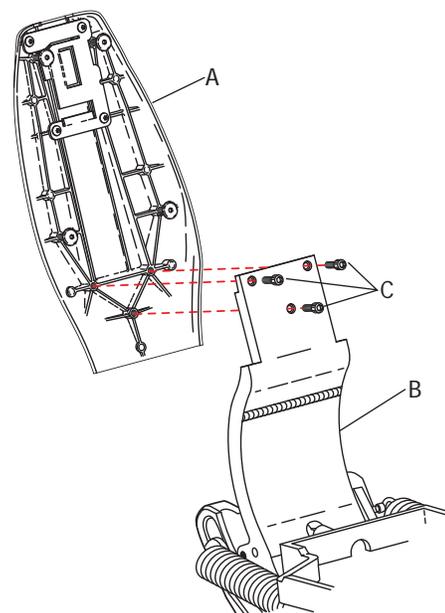
3. 取り付けネジを締めます。



注 チェアの背板がぐらつかないようにしっかりとネジを締めます。

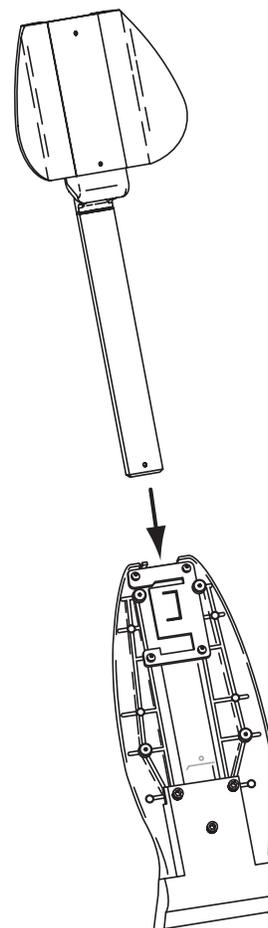
4. チェアにヘッドレストアセンブリを取り付けます (図14を参照)。

図13. 背板サポートを取り付ける



(A) 背板サポート、(B) チェアの背板、(C) 取り付けネジ

図14. チェアにヘッドレストを取り付ける



フロアボックスを取り付ける

表3に、フロアボックスのコンポーネントと、対応する梱包箱の番号を示します。

表3. フロアボックスコンポーネント

アセンブリ	運送用ボックス
スピットン排水	8
水フィルター/レギュレーター	8
ゲージ、プリ・レギュレーターアセンブリ、およびエアフィルターとレギュレーター (1つのアセンブリになっています)	2
バキューム排水	7
湿分分離器	3
水遮断弁	3
空気遮断弁	3

1. チェアの座部を最上位まで上げ、チェアの電源をオフにします。



危険 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、感電する恐れがあります。



警告 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、装置に損傷を与えたり、死亡を含む人身事故を起こす恐れがあります。

2. フロアボックスカバーを外します (図16を参照)。
3. 器具の上にフロアボックスを置きます。
 - (1) チェアとフロアボックスフレーム間の距離を合わせるため外部コンボリユートを測ります。
 - (2) 余分なコンボリユートを切り落とします。
 - (3) アンビリカルクリップをフロアボックスフレームに滑り込ませ、コンボリユートチューブをクリップに配管してください。
4. フロアボックスを床にしっかりと固定します。ボックスに同封されていた4本のネジを使用します。

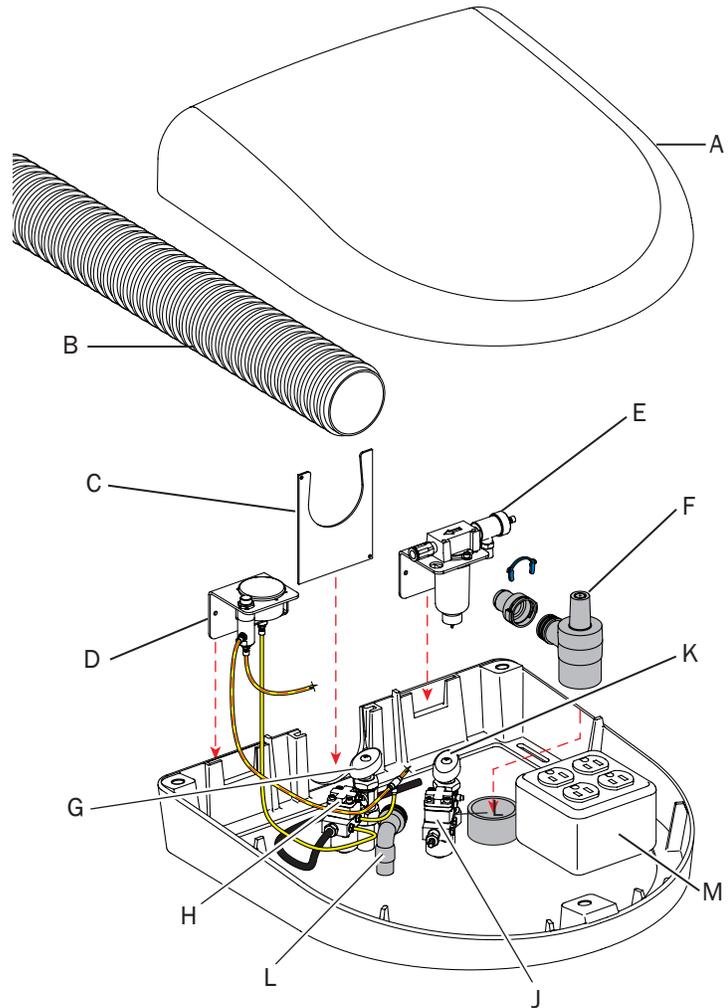
次のステップ

- チェアのための設置の場合は、63ページの「張地とカバーの取り付け」に進みます。
- 他のモジュールを取り付ける場合は、次のボックス番号に合致するセクションへ進んでください。

図15. フロアボックス



図16. フロアボックスを取り付ける



(A) フロアボックスカバー、(B) コンボリユート、(C) クリップ、(D) ゲージおよびプリ・レギュレーターアセンブリ、(E) 湿分分離器 (オプション)、(F) スピットン排水、(G) 空気遮断弁、(H) エアフィルターとレギュレーター、(J) 水フィルターとレギュレーター、(K) 水遮断弁、(L) バキューム排水、(M) 電気コンセント

ボックス2：正面取付部

ボックス2には、正面取付部と正面マウントアームが収納されています。



ヒント ボックス2には、小型のボックス3またはボックス4が収納されている可能性があります。

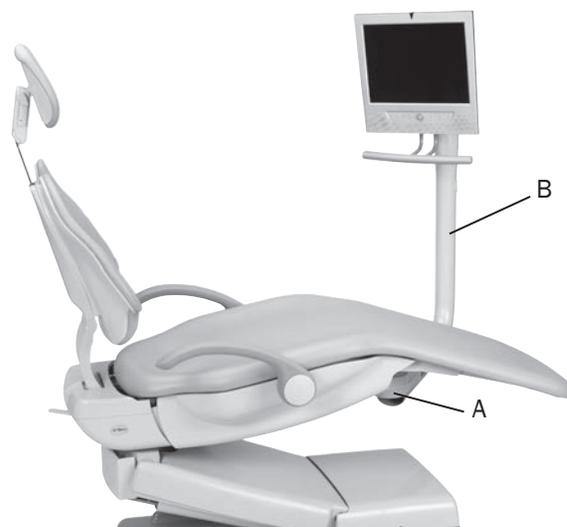
システム構成にしたがって、以下を含む一部のまたはすべての組み合わせのできるオプションを取り付けることができます。

- 小型のボックス3—正面のモニターマウント
- ボックス4—ユーティリティボックス：
 - チェアーマニホールド
 - 正面取付部独立式ウォーターボトル



注 ウォーターボトルは正面マウントのアームまたはサポートセンター内部に取り付けることができます。ウォーターボトルをサポートセンターに取り付ける方法については、32ページの「ボックス8：サポートセンターとスピットン」を参照してください。

図17. 正面取付部と正面マウントアーム



(A) 正面取付部 (隠れている)、(B) 正面マウントアーム

正面マウントアームを取り付ける

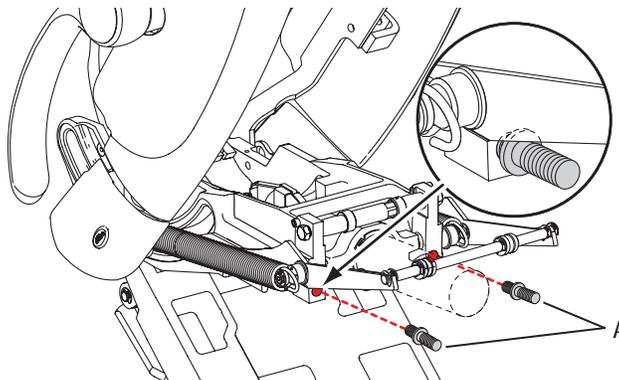
1. チェアのベースを上げて背板を下げます。



警告 チェアを上昇または下降させるとき、可動パーツに手や指を触れないようにしてください。

2. レベリングボルトをねじ込み、2つのねじ山を露出させます (図18を参照)。
3. 正面取付部とアームの位置を合わせます (図19を参照)。
4. アームをレベリングカムに取り付けます。
5. 2個のフランジナット (19.05ミリ、3/4") をレベリングボルトに取り付け、指で締めます (図20を参照)。
6. 回転停止ピンおよびバンパーを追加し、右か左に取り付けます (図21を参照)。
7. ネジが上部構造に接触するまで固定ボルト (11.1125ミリ、7/16") を締めます。

図18. レベリングボルトを締める



(A) レベリングボルト (2つのねじ山を露出)

図19. 正面取付部とアームの位置を合わせる

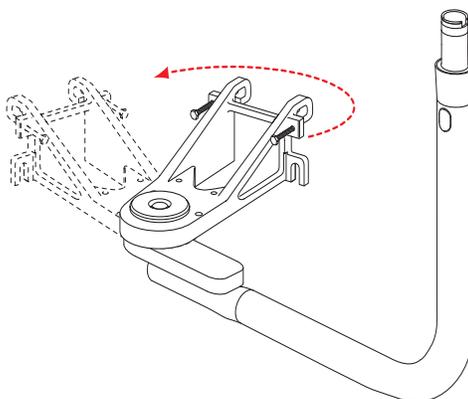
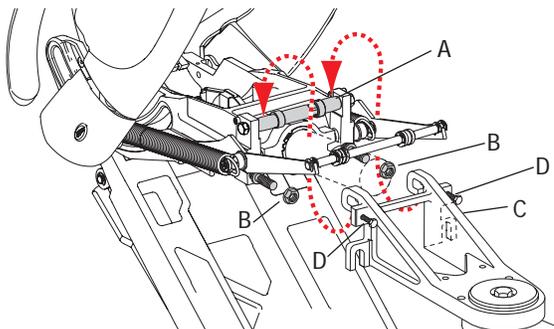
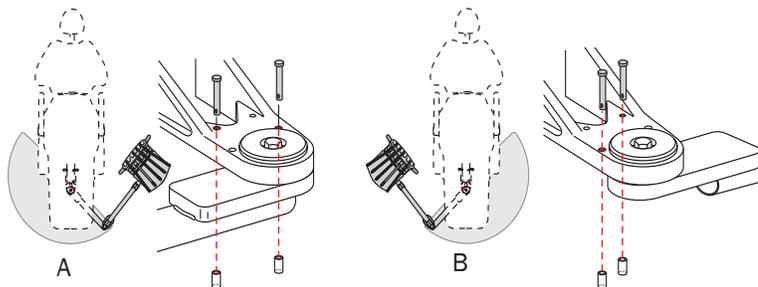


図20. レベリングカムにアームを取り付ける



(A) レベリングカム、(B) フランジナット、(C) 正面取付部と付属の正面マウントアーム、(D) 11.1125ミリ (7/16") の固定ボルト

図21. 回転停止ピンとバンパーを追加する



(A) 左に回転、(B) 右に回転

ボックス4：正面マウントウォーターボトル



注 この段階ではボックス4から正面マウントのウォーターボトルのみを取り付けます。残りは大型ボックス3の後で取り付けます。

正面マウントウォーターボトルを取り付ける

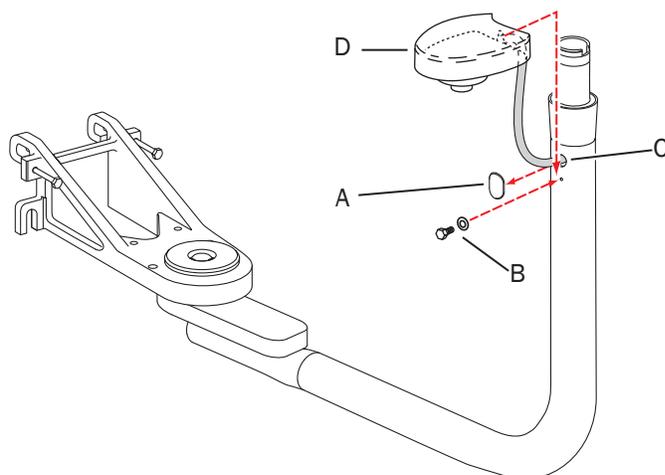
1. ホールプラグの下部を引いて、正面マウントアームから慎重に取り外します（図22を参照）。
2. 一部のねじ山を露出したままにしながら取付ネジをねじ穴に差し込みます。
3. チューブホールにチューブを送り込み、アームを下げます（図23を参照）。



ヒント 簡単にアームに通すには、通す前にチューブを完全にまっすぐに整えてください。

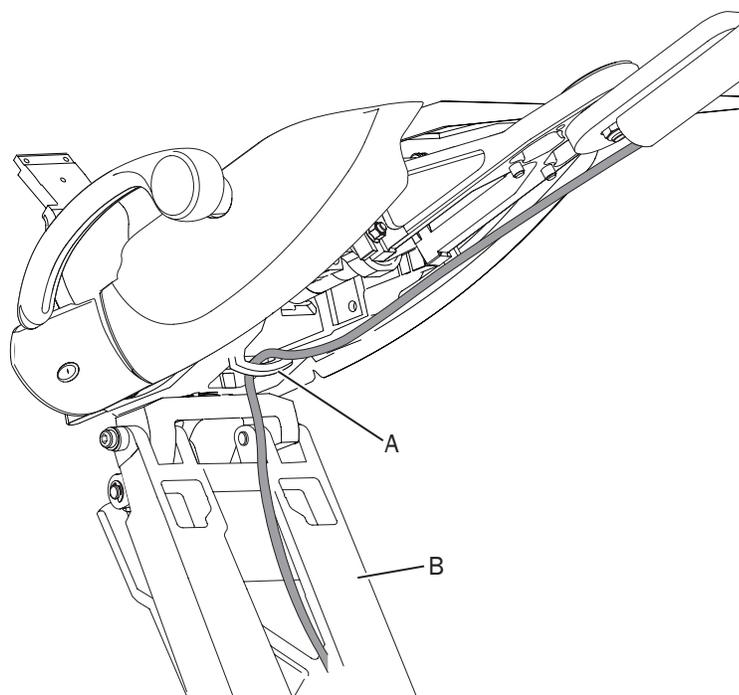
4. 取付ネジの上にキャップハウジングを取り付け、ネジを締め付けます。

図22. ホールプラグを取り除きウォーターボトル取付ネジを装着する



(A) ホールプラグ、(B) 取付ネジ、(C) チューブホール、(D) キャップハウジング

図23. チューブを配管する



(A) ブラケット、(B) リフトアーム

5. 上部構造の下部のブラケットからチェアのリフトアームにチューブを通します (図24を参照)。
6. 容器のOリングにシリコングリースを与えウォーターボトルを取り付けます。

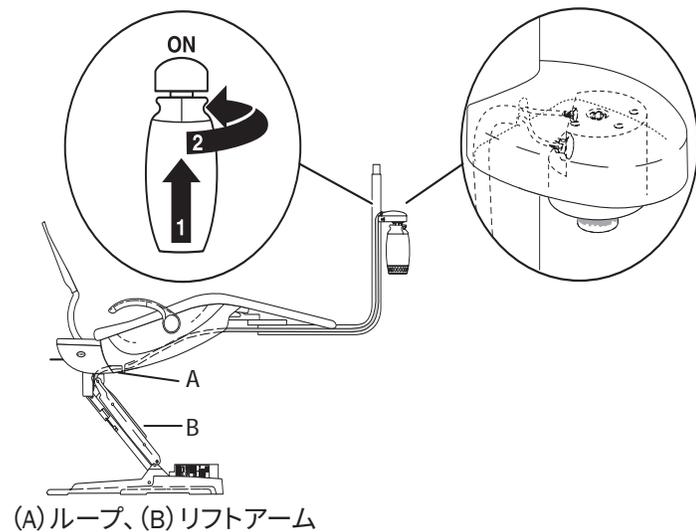


注 構成に正面のモニターマウントが含まれない場合は、15ページの「ボックス3: デリバリーシステム」に進みます。



注 システムをはじめて使用する前、または長期間使用しなかった後に使用する場合は、医院の標準的な方法に従って、歯科治療ユニットのウォーターラインでショックトリートメントを実施することを歯科チームに奨励してください。詳細については、『送水管保守ガイド』(部品番号(P/N) 85.0983.05)を参照するようチームに勧めます。

図24. ウォーターボトルを取り付ける



(A) ループ、(B) リフトアーム

小型のボックス3

正面モニターマウントを取り付ける

システムに正面マウントアームに取り付けるモニターマウントが含まれている場合は、モニターマウントに同梱されている説明書にしたがってモニターマウントを取り付けます。

次のステップ

- 他のモジュールを取り付ける場合は、次のボックス番号に合致するセクションへ進んでください。
- これが最終モジュールである場合は、47ページの「最終段階」に進みます。

ボックス3:デリバリーシステム

大型のボックス3には、TraditionalまたはContinentalデリバリーシステムが収納されています（図25および図26を参照）。



確認 A-dec 300デリバリーシステムを取り付けている場合は、この手順に従わないでください。デリバリーシステムと同梱の指示書に従ってください。

このボックスには、デリバリーシステムに付属して取り付けるオプションモジュールも収納されている場合があります。システム構成に応じて、以下のものを取り付けます。

- 標準または大型のトレイ・ホルダーおよびトレイ（図27を参照）
- 補助ホルダー



注 大型ボックス3にオプションのフットコントロールが収納されている場合があります。設置の順序と方法については、22ページの「フットコントロールを取り付ける」を参照してください。

デリバリーシステムを取り付ける



危険 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、感電する恐れがあります。



警告 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、装置に損傷を与えたり、死亡を含む人身事故を起こす恐れがあります。

1. チェアを下げ、チェアの電源をオフにします。

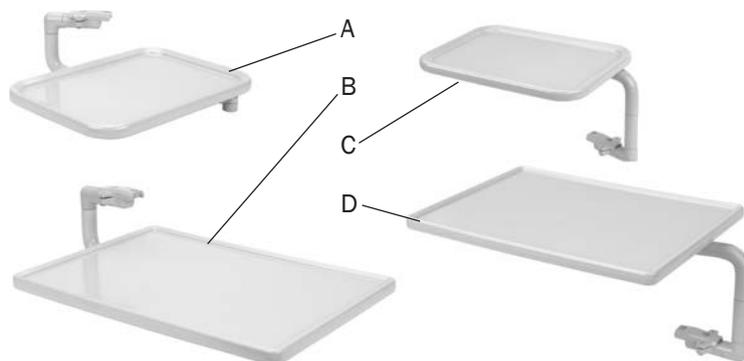
図25. 532 Traditionalデリバリーシステム



図26. 533 Continentalデリバリーシステム



図27. 500デリバリーシステムのトレイとホルダー



(A) Continental標準、(B) Continental大型、(C) Traditional標準、(D) Traditional大型

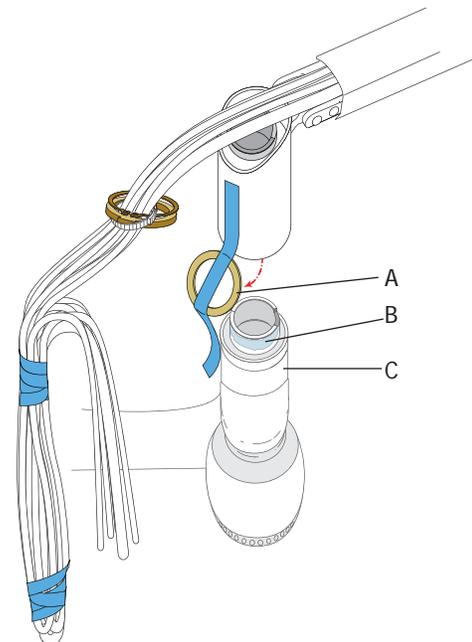
2. 正面マウントアームの支柱用潤滑油には Lubriplate®を使用してください。
3. スラストワッシャー（ハブの底にテープで留めてあります）を支柱に取り付けます（図28を参照）。
4. マウントアームにデリバリーシステムアセンブリを位置合わせします（図29を参照）。
5. アームにアンビリカルチューブを配管します。



ヒント 配管を容易にするには、チューブの端部を保護しているテープをそのままにしておいてください。

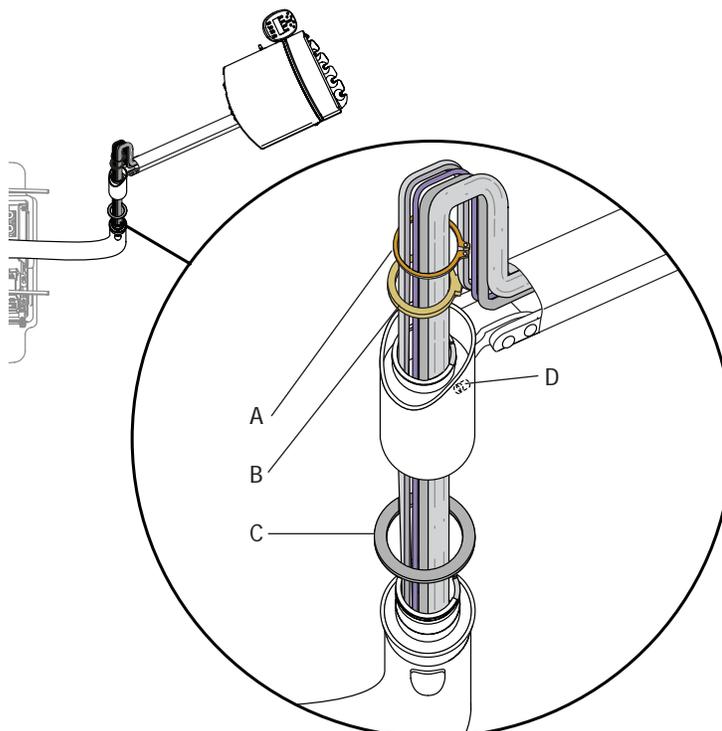
6. アームの切り込みにストップリングのキーでピボット停止リングを取り付けます。
7. デリバリーシステムアセンブリを支柱にしっかり固定するためにピボット停止リング最上部にスナップリングを取り付けます。
8. フレックスアーム上の回転張力を調整するには張力止めネジを締めてください。締めすぎないように注意してください（図29を参照）。

図28. 支柱にスラストワッシャーを取り付ける



(A) スラストワッシャー、(B) 支柱のここに潤滑油を差す、(C) 支柱

図29. デリバリーシステムを正面マウントアームに位置合わせする



(A) スナップリング、(B) ピボット停止リング、(C) スラストワッシャー、(D) 止めネジ

9. チェアの電源をオンにし、ベースと背板を上げます。チェアの電源をオフにします。
10. チェアの上部構造のループからチェアのリフトアームに、シールドの下のアンビリカルチューブを通します (図30を参照)。

トレイ・ホルダーを取り付ける

トレイ・サポートアームは、デリバリーシステムの左側または右側に取り付けることができます。トレイ・ホルダーは、Traditionalデリバリーシステムの上側、Continentalデリバリーシステムの下方に位置合わせします。

1. 3本のネジでトレイサポートアームをトレイホルダーに取り付けます (このページの図32、18ページの図33、18ページの図34、18ページの図35を参照)。
2. コントロールヘッドの底にあるサポートネジ周りの所定の場所にトレイ・サポートアームをスライドさせて、トレイ・ホルダーアセンブリをデリバリーシステムに取り付けます。アセンブリの2番目のネジを締めます (図31を参照)。

図30. デリバリーシステムのチューブを配管する

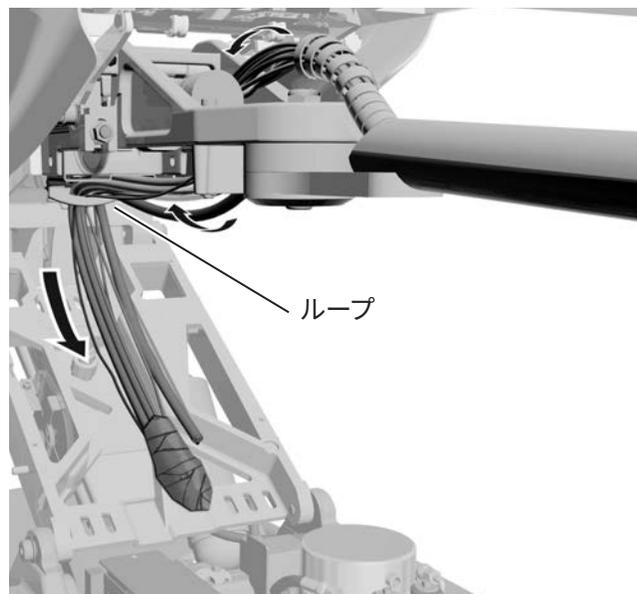
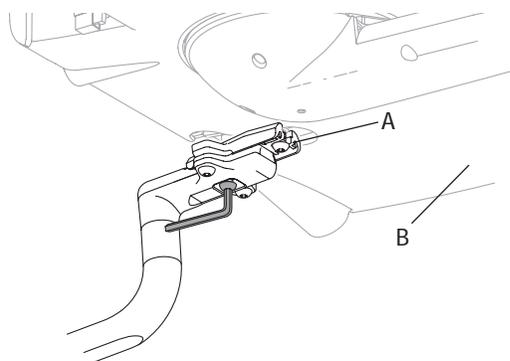
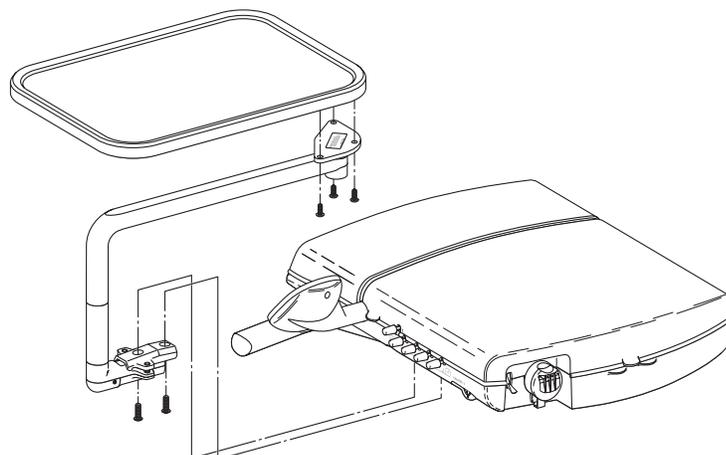


図31. トレイ・サポートアームを所定の位置にスライドさせる



(A) サポートネジ、(B) コントロールヘッドの下側

図32. Traditional標準トレイ・ホルダーを取り付ける



- 六角ヘッドボルトを使ってトレイアームの抵抗を調整します (図36を参照)。

次のステップ 19ページの「ボックス4:ウォーターボトルとマニホールド」に進みます。

図33. Traditional大型トレイ・ホルダーを取り付ける

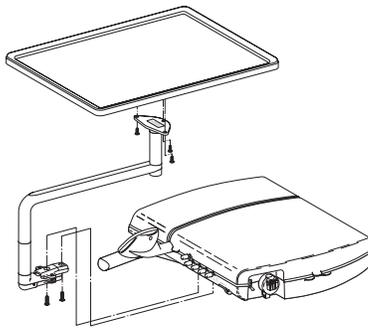


図34. Continental標準トレイ・ホルダーを取り付ける

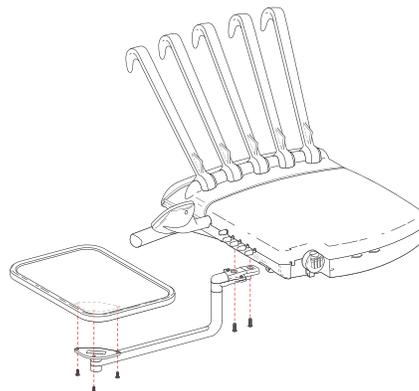


図35. Continental大型トレイ・ホルダーを取り付ける

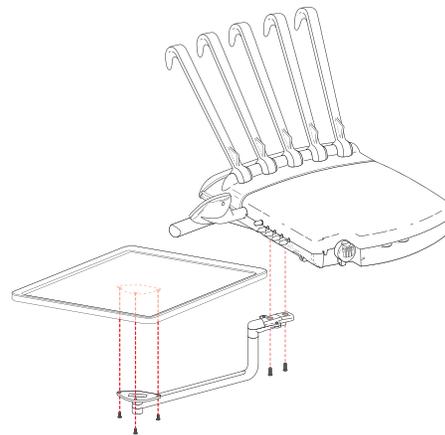
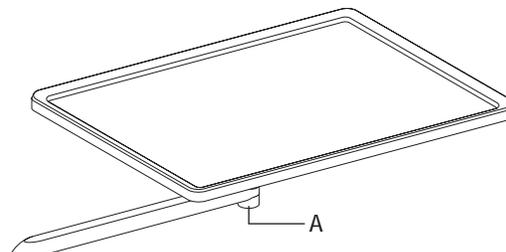


図36. トレイアームの抵抗を調整する



(A) 六角ヘッドボルトを調整する

ボックス4: ウォーターボトルとマニホールド

ボックス4には、ウォーターボトルとマニホールドが収納されています。

このボックスには、フロアボックスに付属して取り付けるオプションモジュールも収納されている場合があります。システム構成に応じて、以下のものを取り付けます。

- フットコントロール
- 湿分分離器



注 構成によって、ボックス4にボックス2の正面取付部が収納されている場合があります。正面マウントのウォーターボトルが必要な構成の場合、13ページのを参照してください。

湿分分離器を取り付ける (オプション)

湿分分離器のキットに同梱されているサービスガイドを使用します(図37を参照)。

チェアーマニホールドを取り付ける

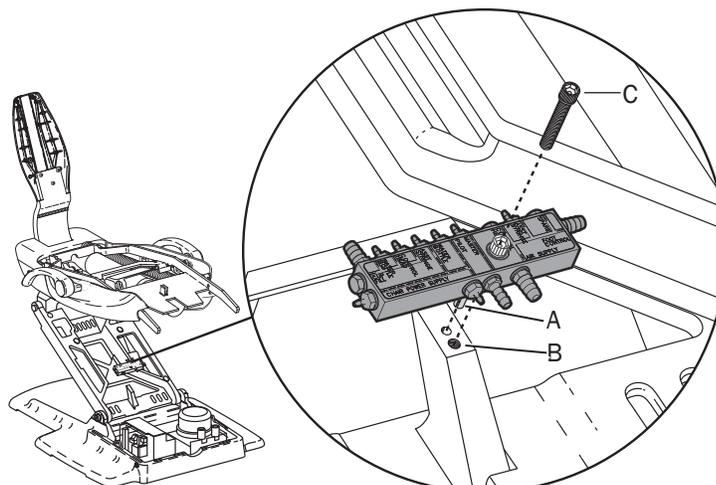
チェアーマニホールドは空気用および水用チューブのセントラルコネクションポイントです。

1. チェアーマニホールドのリフトアームの穴に、チェアーマニホールドのロケーターピン(マニホールドの背面)を差し込みます(図38を参照)。
2. チェアーマニホールドキットにある取付ネジで、マニホールドをリフトアームにしっかり固定します。

図37. 湿分分離器を取り付ける(オプション)



図38. チェアーマニホールドを取り付ける



(A) マニホールドのロケーターピン、(B) 取付ネジの穴、
(C) 取付ネジ

チューブとケーブルを固定する

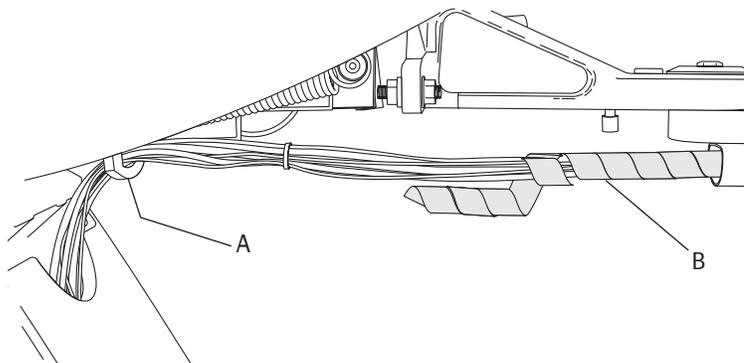
1. チェアの上部を経由してチューブとケーブルを配置します。
2. 正面マウントアームから伸びるチューブとケーブルにアンビリカルラップを巻きつけます (図39を参照)。



注 他の機器 (モニターなど) の取り付けが必要な場合は、アンビリカルラップは最終段階で巻き付けてください。チューブの余分な部分を切り落とす場合は、アンビリカルラップとベイルの追加によって必要なチューブの長さが変わる点に注意してください。

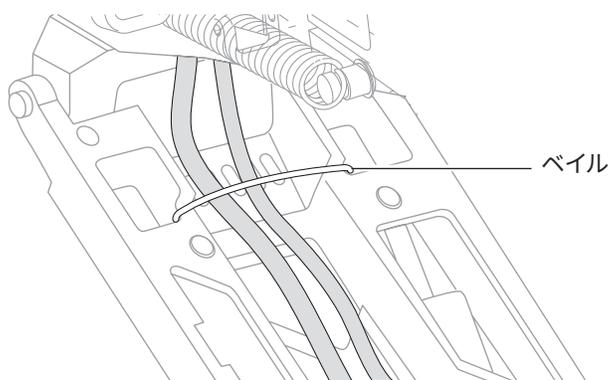
3. すべてのチューブとケーブルを固定するため、リフトアームにベイルを取り付けます。ベイルの中央を押すと、取り付けやすくなります (図40を参照)。

図39. チューブとケーブルをさやで巻く



(A) ループ、(B) アンビリカルラップ

図40. チューブとケーブルをベイルで固定する



ウォーターボトルを管につなぐ

1. 水用チューブ (青) と空気用チューブ (黄) を適切な長さに切断します。



注 正しくフィットするようにすべてのチューブのカットは直角に行うように注意してください。

2. 青色の水用チューブをマニホールドに取り付け黒色のチューブスリーブで固定します。正しい接続については、マニホールドのラベルを参照してください (図41を参照)。
3. 黄色の空気用チューブをマニホールドに取り付けます。

デリバリーシステムを管につなぐ

1. 空気用チューブと水用チューブをマニホールドに接続します。チェアのマニホールドから取り付けられたモジュールによって、どのバーブまたはプラグを取り外すか、あるいは交換するかが決まります。正しい接続については、マニホールドのラベルを参照してください (図41を参照)。
2. マニホールドの下部に電源ケーブルを通し、電源から黒の24 VACの絶縁されたリード線に接続します。
3. デリバリーシステムのデータ回線をマニホールドの下に通して、チェアの回路基盤に接続します。余分なデータ回線を巻きつけます (図42を参照)。
4. マニホールドからパイロットエアーをチェアの電源に接続します。

図41. 空気用チューブと水用チューブをマニホールドに接続する

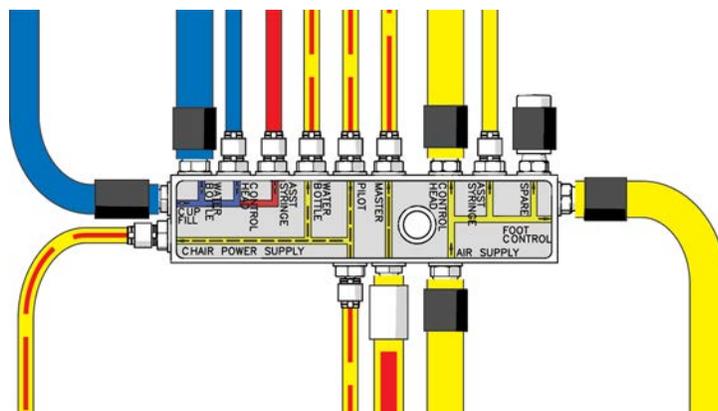
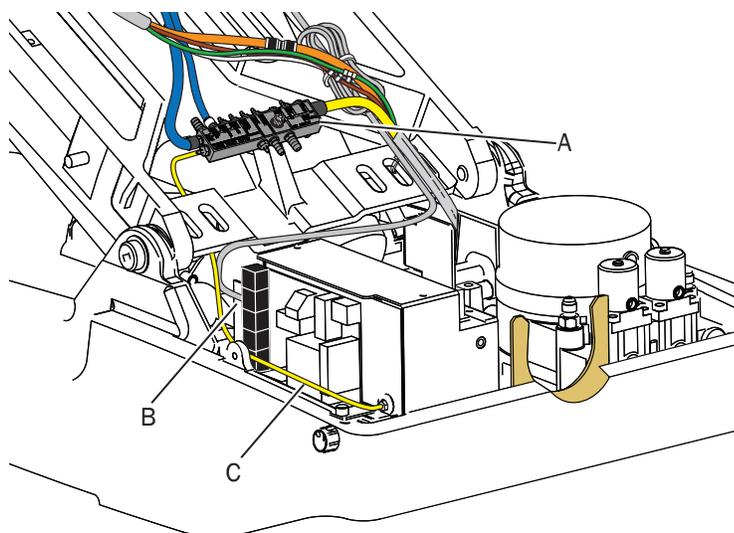


図42. 電源ケーブルとデータ回線を配線する



(A) マニホールド、(B) データ回線、(C) パイロットエアーと電源エアー/電気スイッチ

フットコントロールを取り付ける



注 フットコントロールはデリバリーシステム用にのみ使用されます。



確認 レバーフットコントロールを取り付けている場合は、次のセクションの代わりに、フットコントロールと同梱の設置指示書に従ってください。

1. フットコントロールチューブをリフトアームの下を通してポンプモーター側まで配管します。
2. チューブをデリバリーシステムのチューブとマニホールドに接続します (図44を参照)。
3. チューブ上に張力緩和ブラケットをセットしブラケットネジを締めます。



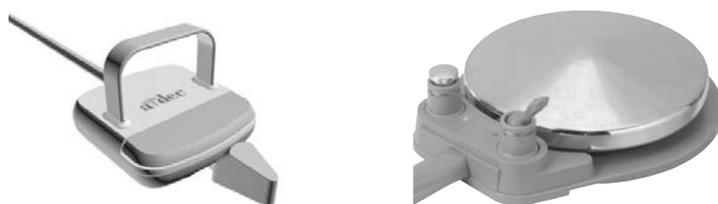
注 適切な位置決めのため、フットコントロールのチューブの畝を張力緩和装置内の溝に合わせて仰向けにしてください。

4. ケーブル留めでフットコントロールチューブをリフトアームに固定します。

フロアボックスを管につなぐ

1. 残りのデリバリーシステムチューブをコンボリユートを通してフロアボックスにつなぎます (図45を参照)。
2. 手動遮断弁の残屑をパージします。

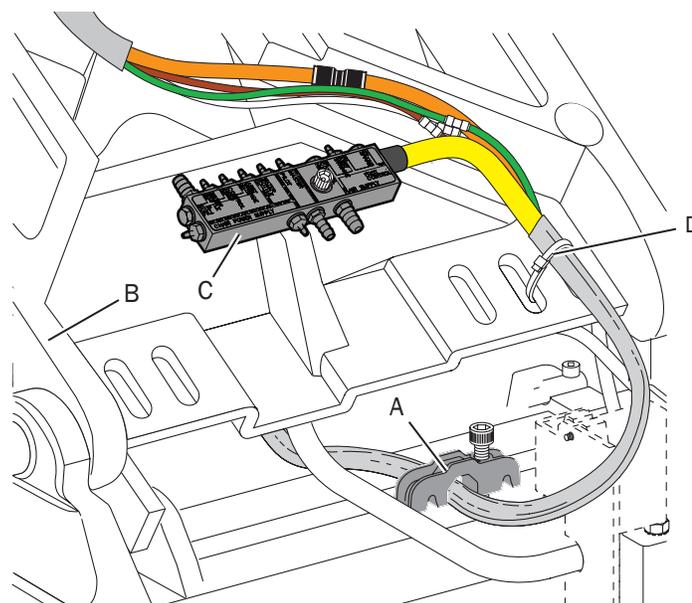
図43. フットコントロールを取り付ける



レバーフットコントロール

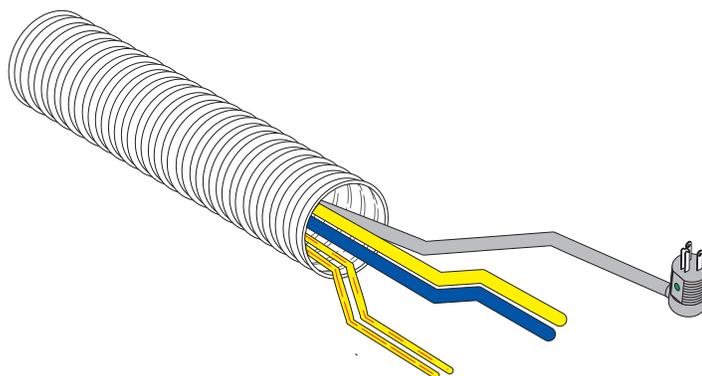
ディスクフットコントロール

図44. フットコントロールチューブを配管する



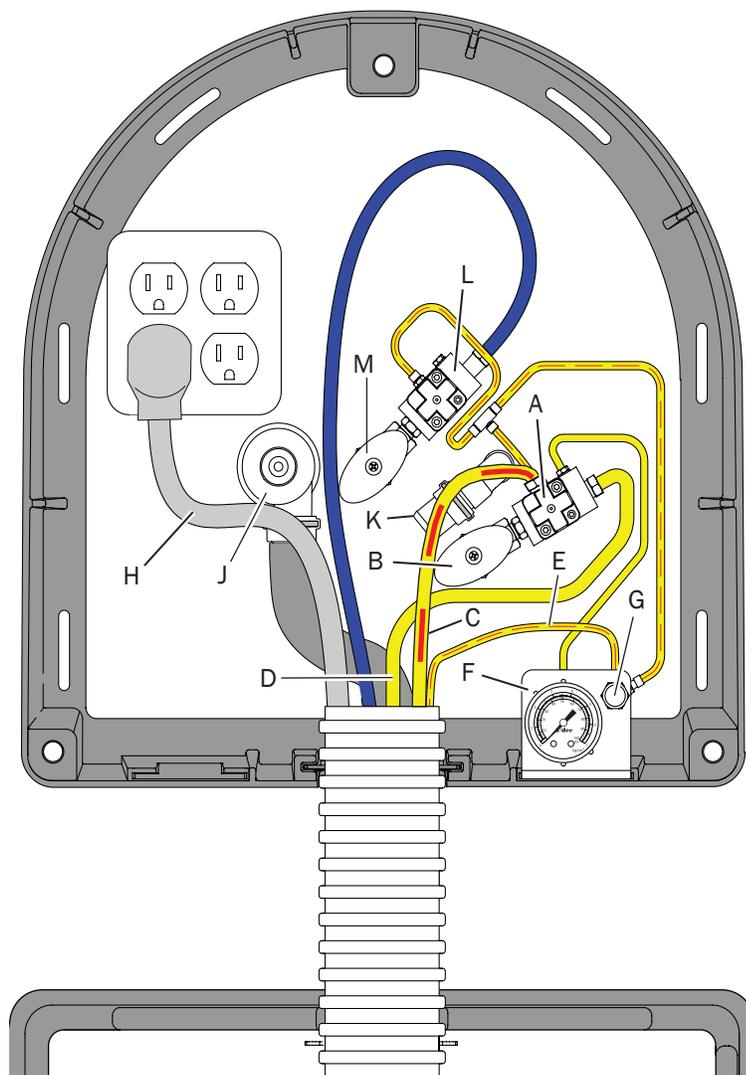
(A) 張力緩和ブラケット、(B) チェアのリフトアーム、
(C) マニホールド、(D) ケーブル留めで固定する

図45. チューブをコンボリユートを通してフロアボックスに配管する



3. エアフィルターとレギュレーターを手動空気遮断弁に接続します (図46を参照)。
4. マスターエアおよび給気配管チューブを正しい長さに切り揃え、フロアボックス内のエアフィルターとレギュレーターに接続します。
5. パイロットエア用チューブを切り揃えます。ゲージおよびプリ・レギュレーターアセンブリを取り付けます。
6. ゲージおよびプリ・レギュレーターアセンブリをフロアボックスフレームの取付スロットに配置します。
7. 手動空気遮断弁を全開にします。
8. 手動水遮断弁を全開にします。
9. チェアの電源コードをコンセントに接続します。
10. チェアの背板を上げます。

図46. フロアボックスを管につなぐ



(A) エアフィルターとレギュレーター、(B) 手動空気遮断弁、(C) マスターエア、(D) 給気、(E) パイロットエア、(F) 空気圧ゲージ、(G) プリ・レギュレーター、(H) チェアの電源コード、(J) 重力排水、(K) バキュームソース、(L) 水フィルターとレギュレーター、(M) 手動水遮断弁

ボックス5: サポートリンク

ボックス5には、A-dec 561サポートセンター、A-dec 551歯科助手用器具、サポート側歯科ライトのサポートアームをチェアに取り付けるためのサポートリンクが含まれています。



確認 A-dec 461サポートセンターまたはA-dec 351歯科助手用器具がシステムに含まれている場合は、この手順に従わないでください。このモジュールでは別のサポートリンクを使用します。サポートセンターまたは歯科助手用器具と同梱の設置指示書に従ってください。



注 サポートアーム用取付ネジはボックス5に同梱されていますが、構成によっては、ボックス6またはボックス7の組み立てまで使用しません。



危険 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、感電する恐れがあります。



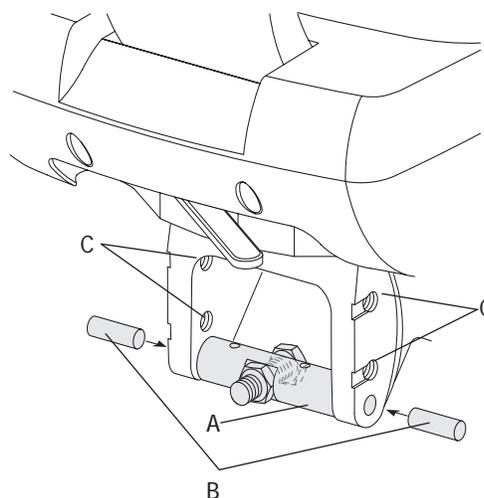
警告 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、装置に損傷を与えたり、死亡を含む人身事故を起こす恐れがあります。

1. チェアを座部を上げた位置および背板を上げた位置に設定し、椅子の電源をオフにします。
2. デリバリーシステムが取り付けられている場合、主電源トグルをオフにして空気を抜きます。
3. ストッププレートカバーを取り外します。
4. 2本のドウェルピンでレベリングバーをチェアの旋回装置に取り付けます (図48を参照)。
5. サポートリンクをチェアまで滑らせ、最上部で2本の取付ボルトとワッシャーを使って取り付けます。ネジを締めないでください (図49を参照)。

図47. サポートリンク

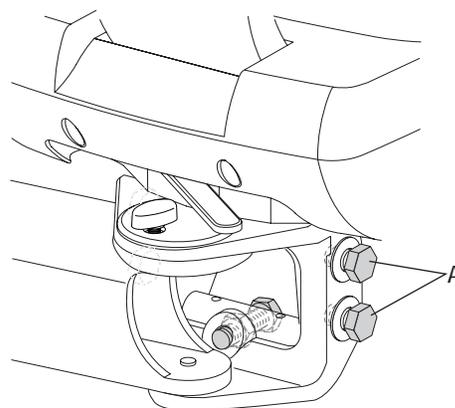


図48. レベリングバーを取り付ける



(A) レベリングバー、(B) ドウェルピン、(C) 取付ボルト穴

図49. サポートリンクを取り付ける



(A) 取付ボルトとワッシャー

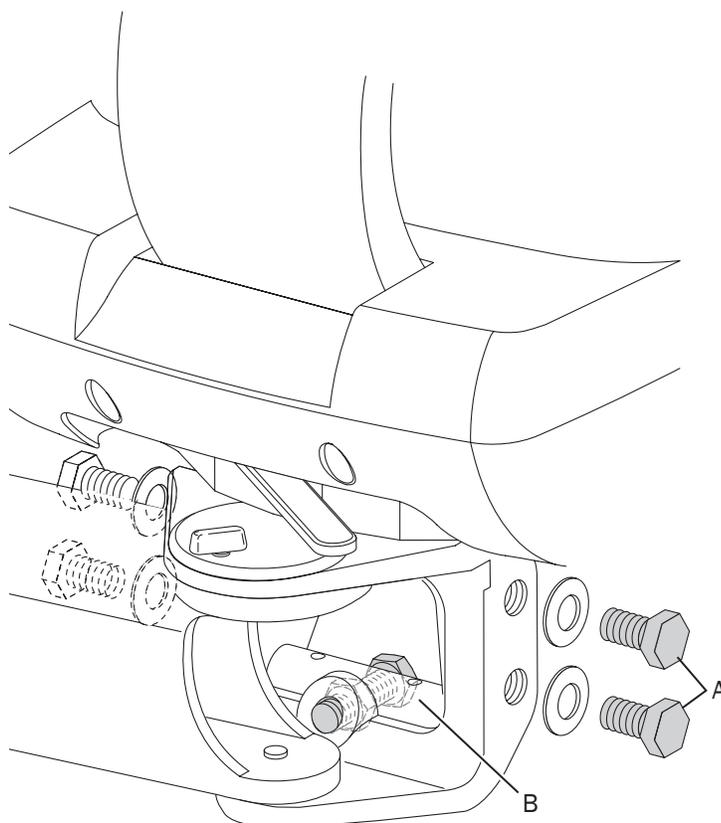
6. レベリングボルトをねじ山が1~2本見える位置までレベリングバーにねじ込みます。
7. 最下部の2本の取付ボルトおよびワッシャーをサポートリンクに取り付けます。



ヒント 取り付け作業中は、ボックス1からフォームパッキングシートを出してチェアのベースプレートを覆い、保護します。

8. サポートリンクを水平にします。
 - (1) 両側の取付ボルトを緩めます (図50を参照)。
 - (2) ロックナットを緩めます。
 - (3) リンクの上に水準器を置きます。
 - (4) 六角ボルトをサポートリンクと同じ高さになるよう調整します。
 - (5) ロックナットを締めます。
 - (6) 取付ボルトを締めて固定します。

図50. ほぼ同じレベルに調整する



(A) 取付ボルト、(B) 六角ボルトとロックナット

ボックス6: サポートアーム

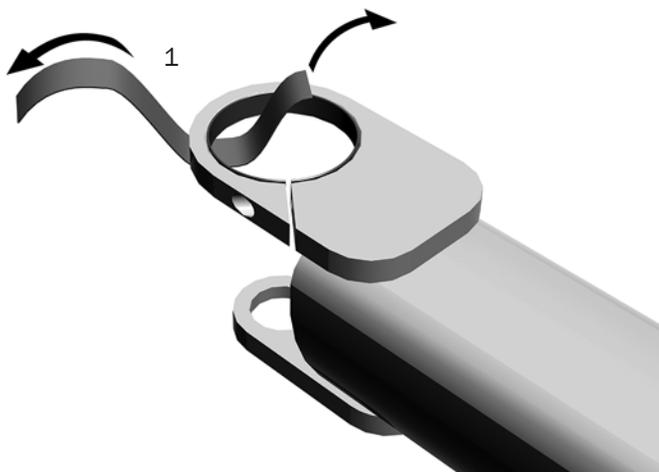
ボックス6にはサポートセンター、スピットン、歯科ライト、サポート側モニターマウントを取り付けるためのサポートアームが収納されています。システム構成にしたがって、一部のまたはすべてのアイテムを取り付けることができます。

1. 軸受スリーブのテープをはがして、アームを支えます (図52を参照)。

図51. サポートアーム

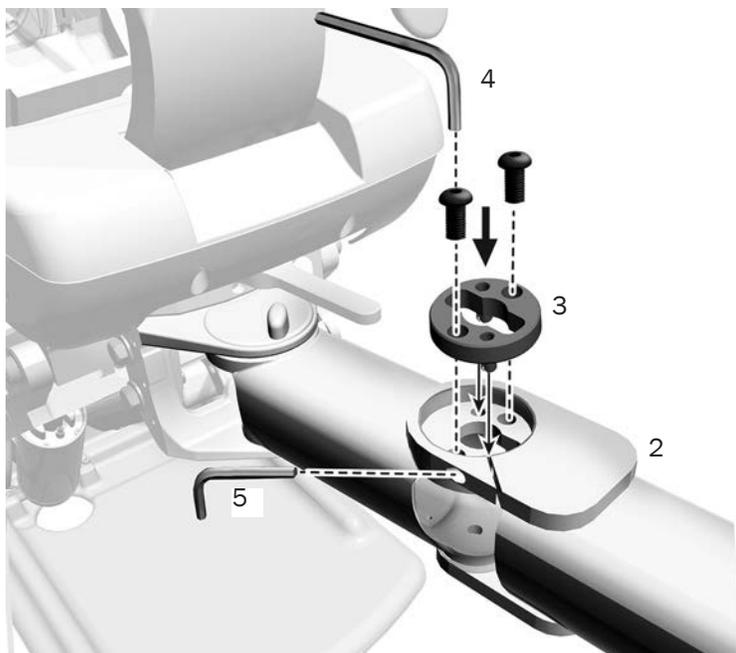


図52. 軸受スリーブのテープをはがす



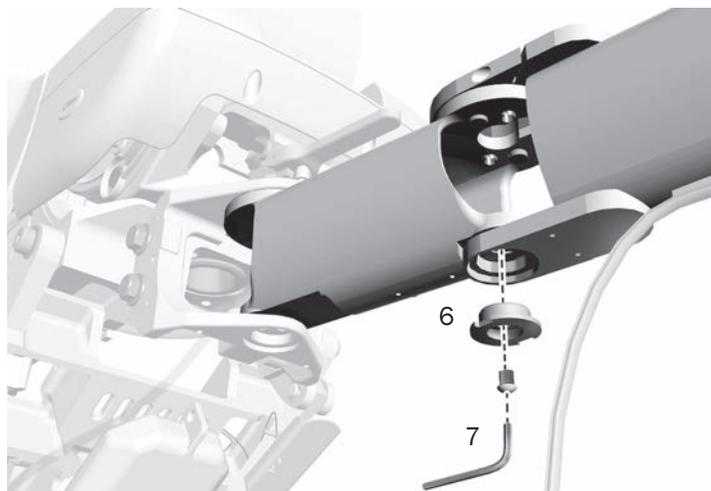
2. サポートリンクを使ってサポートアームを適切な位置に取り付けます (図53を参照)。
3. 軸受を挿入します。
4. 7.9375ミリ (5/16") の六角レンチを使って軸受をサポートリンクに固定します。
5. 4.7625ミリ (3/16") の六角レンチを使って、アームがぐらつかずスムーズに動くようになるまでフリクションを調整します。

図53. サポートリンクにサポートアームを取り付ける



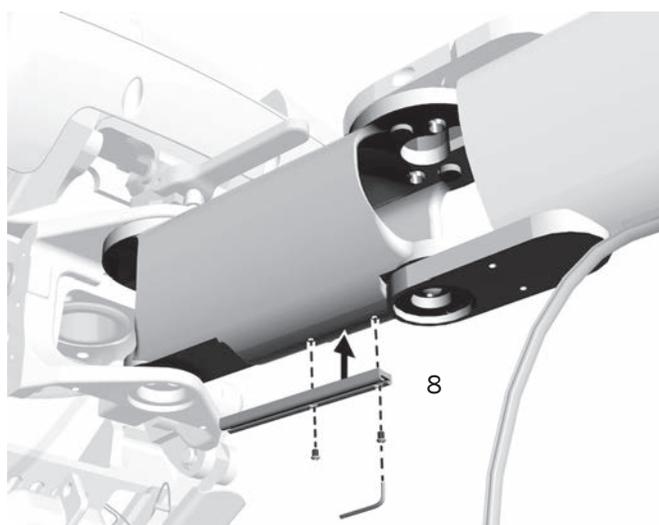
6. アームの下部に軸受を挿入します (図54を参照)。
7. 7.9375ミリ (5/16") の六角レンチを使って、キットに含まれている真ちゅうのボルトで軸受を固定します。

図54. 下部軸受を取り付ける



8. 1.984375ミリ (5/64") の六角レンチを使って、配管ガイドをサポートリンクに取り付けます (図55を参照)。

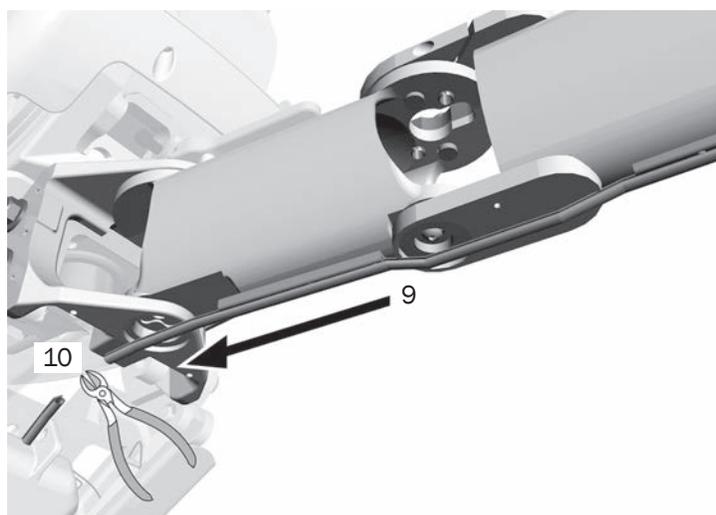
図55. 配管ガイドを取り付ける



注 完全にリンクの上に乗るようにガイドを配置し、サポートアームを固定するネジを露出します。

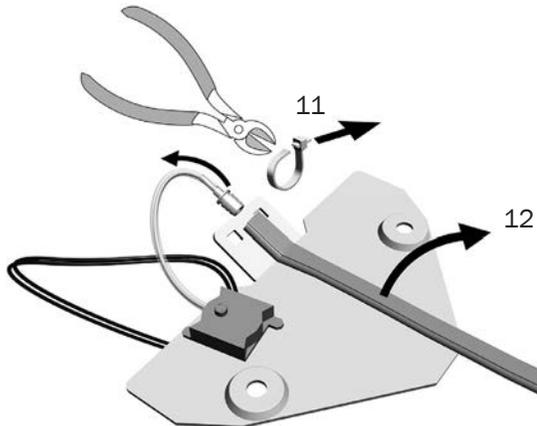
9. チューブをガイドに差し込みます (図56を参照)。
10. サポートリンクの端まで届いたらチューブを切断します。

図56. ガイドにチューブを取り付ける



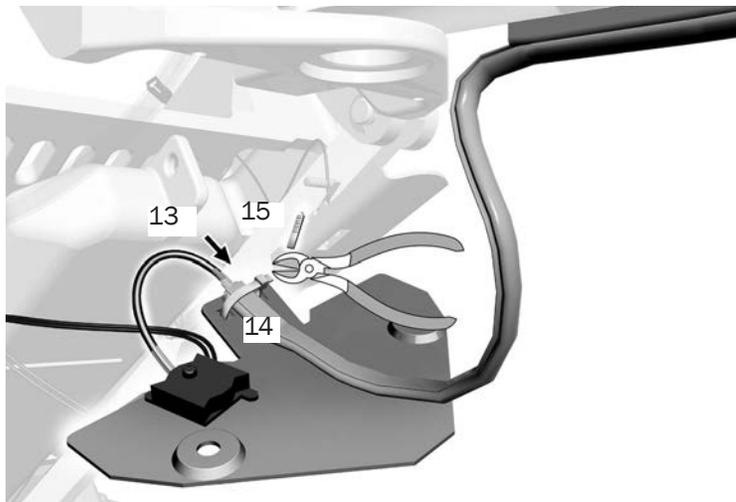
11. チューブを保護するケーブル留めをサポートリンクのストップスイッチプレートで切断します (図57を参照)。
12. チューブを取り外します。

図57. ケーブル留めを切断する



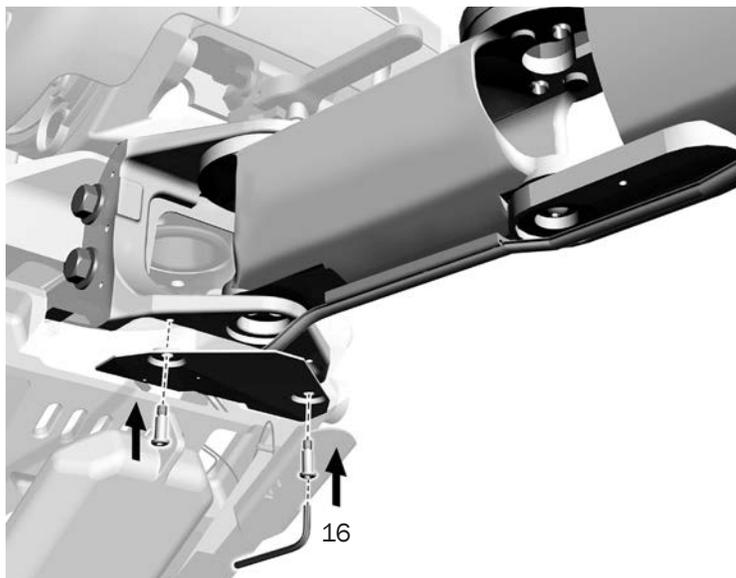
13. チューブにストップスイッチバーブ継手を挿入します (図58を参照)。
14. ケーブル留めを使って、チューブをストップスイッチプレートに固定します。チューブの畝を上に向けます。
15. 余分なケーブル留めを切除します。

図58. ストップスイッチバーブ継手を挿入する



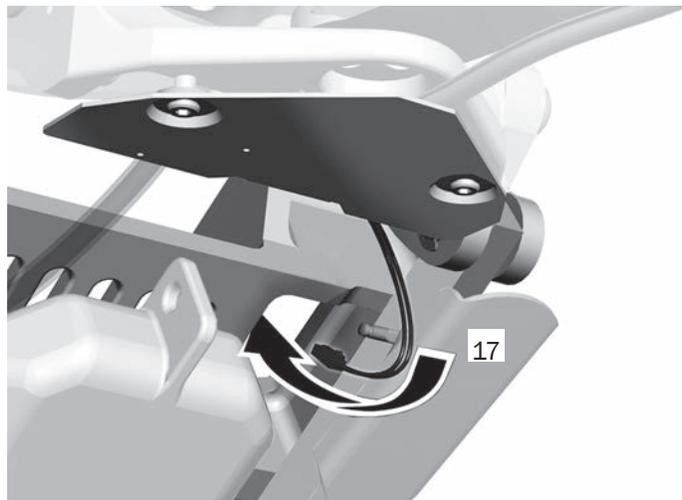
16. 3.96875ミリ (5/32") の六角レンチと2つのショルダーボルトを使用して、ストップスイッチプレートを固定します (図59を参照)。

図59. ストップスイッチプレートを固定する



17. ストップスイッチのワイヤーをリフトアームの前へ通します (図60を参照)。

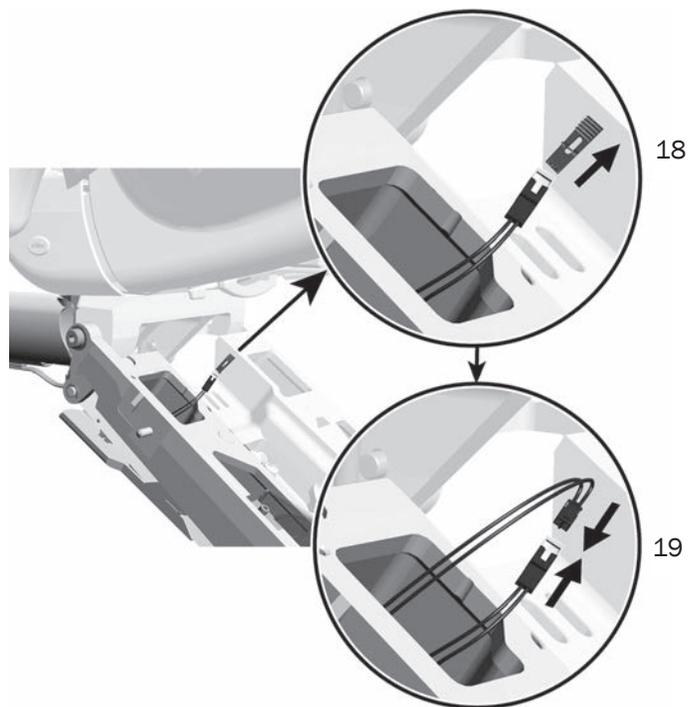
図60. ストップスイッチのワイヤーを前面に通す



18. リフトアームのストップスイッチからジャンパーを取り外します (図61を参照)。

図61. ストップスイッチを接続する

19. ストップスイッチを接続します。



20. 3.96875ミリ (5/32") の六角レンチと2つのシヨルダールボルトを使用して、アクチュエータプレートを固定します。プレートの畝を上に向けます (図62を参照)。

次のステップ

31ページの「ボックス7: 歯科助手用器具」に進みます。

歯科助手用器具アームを設置しない場合は、32ページの「ボックス8: サポートセンターとスピットン」に進みます。

図62. アクチュエータプレートを固定する



ボックス7：歯科助手用器具

ボックス7にはA-dec 551歯科助手用器具が収納されています。これらは単独動作モジュールとして組み込むか、追加のサイドサポートモジュールと共に組み込むことができます。単独動作モジュールの場合、サポートリンク(ボックス5)のみが必要です。追加のサポートサイドモジュールと共に組み込む場合は、サポートリンクとサポートアーム(ボックス6)が必要です。



注 システムにA-dec 351歯科助手用器具パッケージが含まれている場合、出荷用梱包には大きい数字が印字されていません。これには、必要なサポートリンクが含まれています。

歯科助手用器具キットに同梱されている説明書に従って歯科助手用器具を取り付けます。

マスタートグルを取り付ける

デリバリーシステムなしで助手用アームを取り付ける場合は、フロアボックスにマスタートグルを取り付けなければなりません。マスタートグルキットに同梱されている説明書にしたがってください。

ボックス8: サポートセンターとスピットン

ボックス8には、サポートセンターとスピットンが収納されています。



確認 システムにA-dec 461サポートセンターが含まれる場合、出荷用梱包には大きい数字が印字されていません。461サポートセンターを取り付けている場合は、この手順に従わないでください。サポートセンターに同梱の指示書に従ってください。



注 デリバリーシステムまたは歯科助手用器具なしでスピットンを取り付ける場合は、フロアボックスにマスタートグルを取り付けなければなりません。取り付けの方法については、マスタートグルキットに同梱されている説明書を参照してください。

スピットン (アセンブリ部品番号77.0379.00) なしでサポートセンターを取り付ける場合は、サポートセンターに同梱されている説明書にしたがってください。

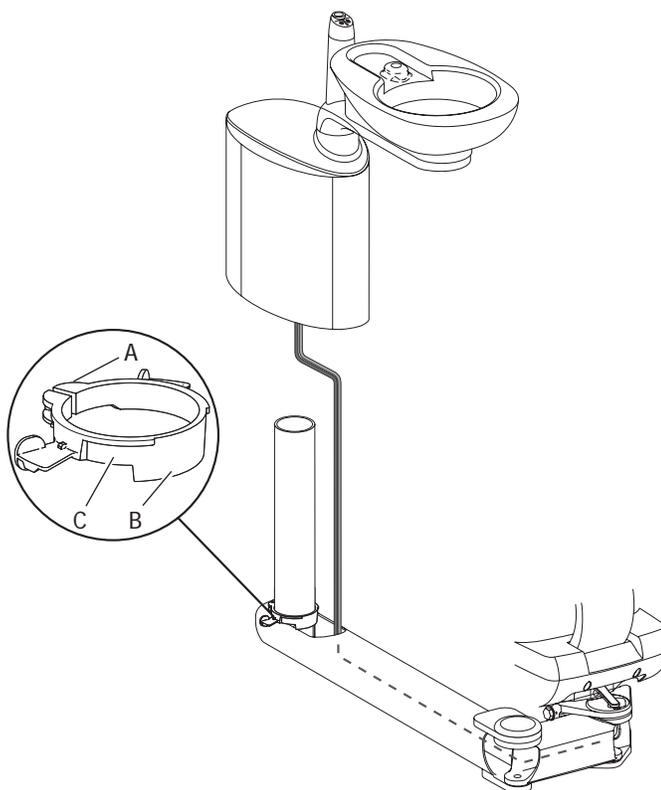
サポートアームにサポートセンターとスピットンを取り付けるには:

1. 回転停止装置が支柱を滑るように回転停止ネジを緩めてください。
2. アームの開口部に沿って位置合わせしたタブを使って、回転停止装置をサポートアーム支柱に取り付けます。タブはアーム開口部内にフィットしなければなりません。
3. 回転停止ネジを締めます。

図63. サポートセンターとスピットン (歯科助手用器具なし)



図64. スピットンをサポートアームに取り付ける



(A) 回転停止ネジ、(B) タブ、(C) 回転停止装置

- サポートセンターからサイドカバーを取り外します。
- サポートセンターにライトまたはモニターを取り付ける場合は、取り付け穴を塞いでください。サポートセンターを側面を下にして置き、ほうきの柄を使ってサポートセンターの下部からサポートセンターのカバーを叩きます。



注意 カバーの下部を叩いて、取付穴の中心を取り除きます。サポートセンターの上部から取付穴を叩かないでください。サポートセンターのトップカバーの曲面が破損する可能性があります。

- サポートセンターとスピットンを支柱の上にセットします (32ページの図64を参照)。
- チューブをアームに通し、センター底部にあるフックが回転停止装置に嵌め込まれるまでサポートセンターに下方向にスライドさせます。



注 取り付けたら、回転停止装置に正しく接合部が噛み合うようサポートセンターとサポートアームを位置合わせします。

独立式ウォーターボトルをサポートセンターに取り付ける

独立式ウォーターボトルはサポートセンターまたは正面取付部に取り付けることができます。正面に取り付ける場合、13ページの「正面マウントウォーターボトルを取り付ける」を参照してください。



注 付属品としてコップ給水ウォーターボトル (部品番号 (P/N)14.0464.02) を取り付ける場合は、キットに付属のサービスガイドを参照してください。

サポートセンターに取り付けるには：

- キャップからウォーターボトルの容器を取り外し、キャップを廃棄します (図67を参照)。

図65. サポートセンターのサイドカバーを取り外す

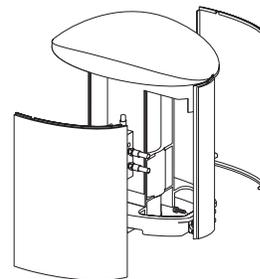


図66. サポートセンターのカバーに取付穴を開ける (ライトまたはモニターを取り付ける場合のみ)

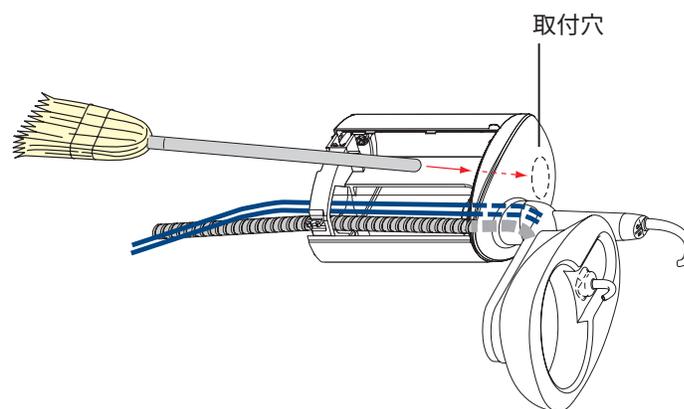
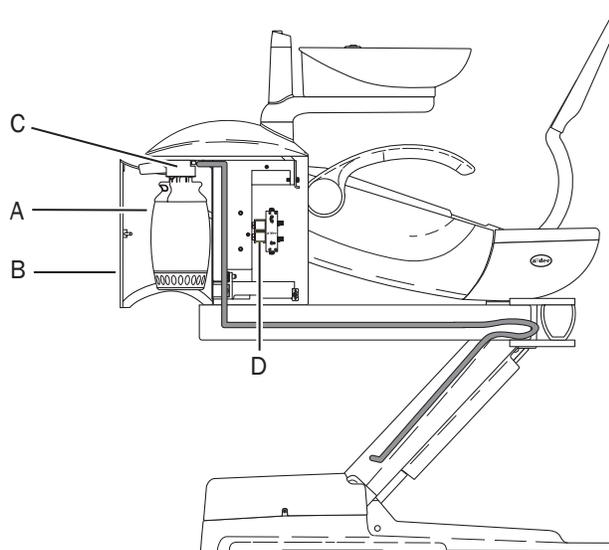


図67. ウォーターボトルに配管し取り付ける



(A) ウォーターボトル、(B) ウォーターボトルカバー、(C) 容器、(D) スピットン水マニホールド

2. ウォーターボトルを管につなぎます。
 - (1) チューブ束をサポートセンターフレームの穴を通して、水マニホールド側に挿入します。
 - (2) チューブをアームとサポートリンクに通し、チェアのリフトアームの下部まで配管します。
 - (3) チューブをチェアのマニホールドに接続します。
3. 2本のネジを使ってウォーターボトル容器をサポートセンターフレームに取り付けます。
4. A-dec ICX®ウォーターライン処理錠剤の説明書にしたがって、ウォーターボトルにICX錠剤(部品番号90.1065.00)を投入します。



警告 A-dec ICX®ウォーターライン処理タブレットが皮膚に直接触れないようにしてください。詳細については、ICXタブレットに付属する取扱説明書(部品番号(P/N)86.0613.00)を参照してください。

5. ボトルに水を満たします。
6. 容器のOリングにA-decシリコン潤滑油を塗ります。



注意 Oリングを損傷しないために、A-decシリコン潤滑油のみを使用してください。

7. 容器にウォーターボトルを取り付けます。

スピットン配管

1. スピットンチューブをチェアのマニホールドの下を通してリフトアームのモーターポンプ側の下に配管します(図68を参照)。
2. マニホールドからコップ給水プラグを外して、バープ継手とワッシャーに入れ替えます(図69を参照)。
3. コップ給水(青色)チューブを切り揃えてコップ給水バープ継手に接続します(図69を参照)。黒色のチューブスリーブで固定します。



注 よじれもつれを防ぐため、チューブはマニホールドの下に配管します。

図68. スピットン配管

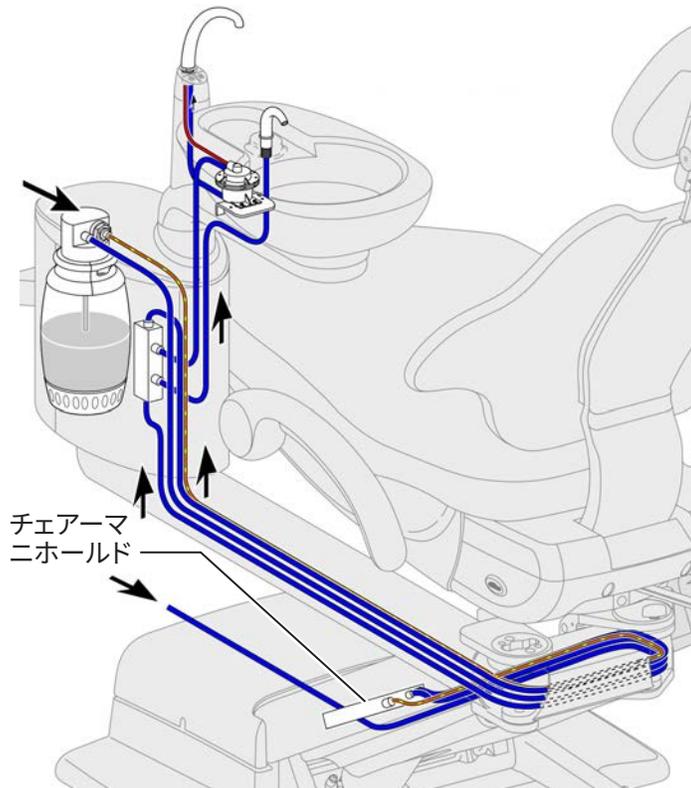
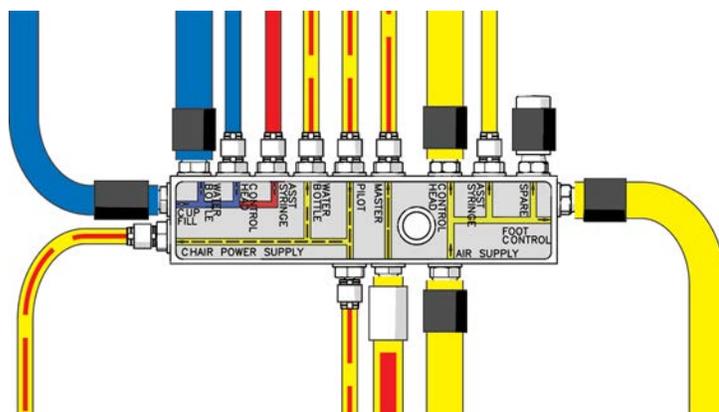


図69. マニホールドにチューブを接続する



4. 電源ケーブルをチェアの電源に接続し、データ回線をチェアの回路基盤に接続します。
5. スピットンの重力排水およびボウル洗浄チューブをコンボリユートを通してフロアボックスに配管します。
6. ボウル洗浄チューブをウォーターフィルター/レギュレーターに取り付け、ウォーターフィルター/レギュレーターを水遮断弁につなぎます (図70を参照)。
7. スピットン吐水口にシリコンを塗布し滑らかにして、スピットンに取り付けます。



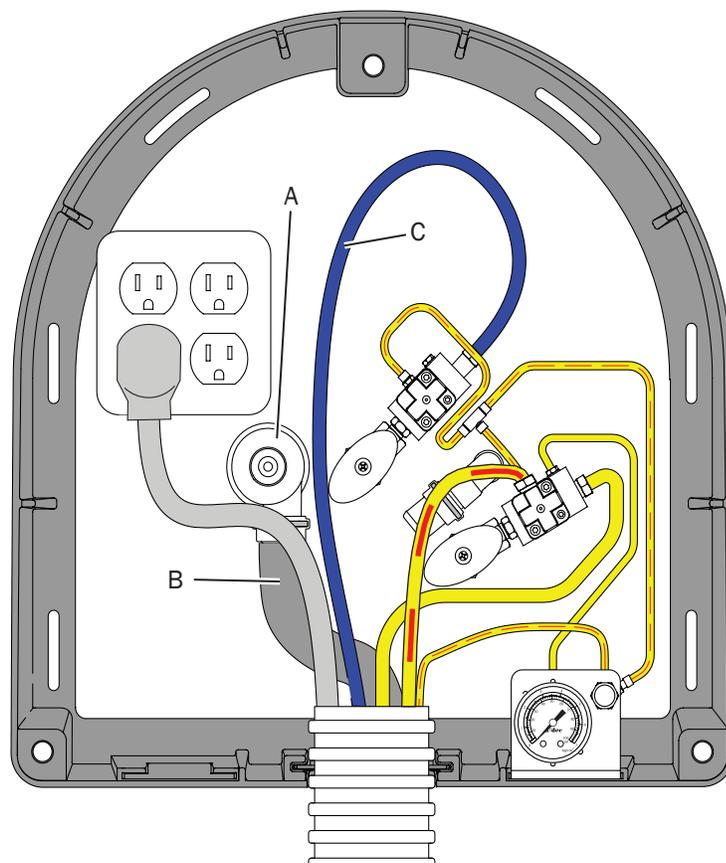
注 コップ給水用吐水口は回転しません。スピットン内の正しい位置に合わせてください。

8. スピットンのボウル排水内に排水トラップを取り付けます。

次のステップ

- 他のモジュールを取り付ける場合は、次のボックス番号に合致するセクションへ進んでください。
- これが最終モジュールである場合は、47ページの「最終段階」に進みます。

図70. チューブをフロアボックスに取り付ける



(A) 重力排水アダプター、(B) スピットン重力排水チューブ、
(C) スピットンボウル洗浄チューブ

ボックス9: モニターマウント



重要 サポート側歯科ライトを取り付けている場合は、この手順に従ってモニターマウントを取り付けしないでください。その代わりに、「ボックス10: 歯科ライト」セクションの41ページの「サポート側モニターマウントを取り付ける」を参照してください。

ボックス9には、サポート側モニター用の取り付け具が収納されています。

モニターマウントを取り付ける

1. 伸縮支柱とモニターマウントアームを取り付けます。

- (1) 伸縮支柱を先の細くなっている先端からサポートセンターポストに差し込みます。定位置に落ち込むまで回転させながら差し込みます。
- (2) トリムリングを伸縮支柱の上にスライドさせて下にスライドさせ、サポートセンターの上部に合わせます。
- (3) 伸縮支柱に回転停止装置を差し込みます。停止装置は太い方が下になるように位置合わせしてください(図72を参照)。
- (4) モニターマウントアームを伸縮支柱に取り付けます。

2. モニターケーブルを配線します。

- (1) サポートアームとエンドキャップを取り外します(図73を参照)。
- (2) 支柱とチェアのリフトアームを経由してモニターケーブルとビデオケーブルを配線します。ケーブルのおよそ457ミリ(18")がモニターマウントアームのモニターの端部から垂れ下がるように残します。



注 A-decはビデオケーブルは提供しません。

図71. モニターマウント



(A) モニターマウントアーム、(B) 伸縮支柱

図72. モニターマウント支柱を取り付ける

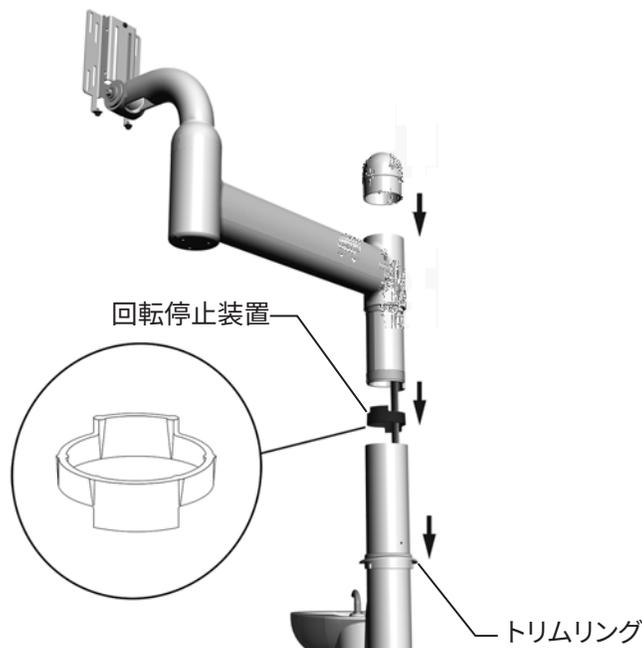
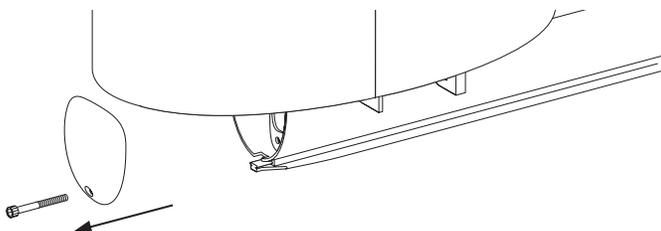


図73. サポートアームのエンドキャップを取り外す(サポートセンターの取り付けの場合のみ)



- (3) ケーブルを適切なビデオソースに接続します。モニター電源ケーブルをチェアへの電源に接続します。



注 システムに口腔内カメラが含まれる場合は、カメラビデオケーブルをデリバリーシステムからモニターへ至るまで通管で通さなければなりません。

VESAアダプターをモニターに接続する



注 モニターの取付穴がくぼんでいる場合、モニターアームのVESAブラケットにモニターを取り付ける前に、モニターにアダプターを取り付ける必要があります。

1. モニターに付属のネジを使ってアダプターをモニターに接続します (図74を参照)。

モニターをマウントアームに取り付ける

1. モニター (取り付けられている場合はアダプター) をマウントアームのVESAブラケットに接続します (図75を参照)。
2. ビデオケーブルと電源ケーブルを接続します。

モニターマウントハンドルを取り付ける

1. 3.96875ミリ (5/32") の六角レンチを使って、ネジの先端がネジ穴と同じ高さになるまでネジを緩めます (図76を参照)。

図74. VESAアダプターをモニターに接続する

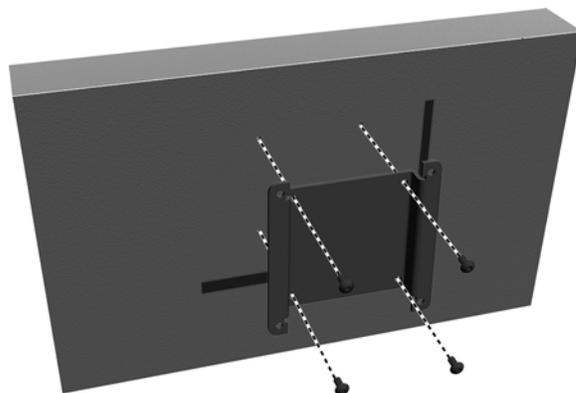


図75. モニターをマウントアームに取り付ける

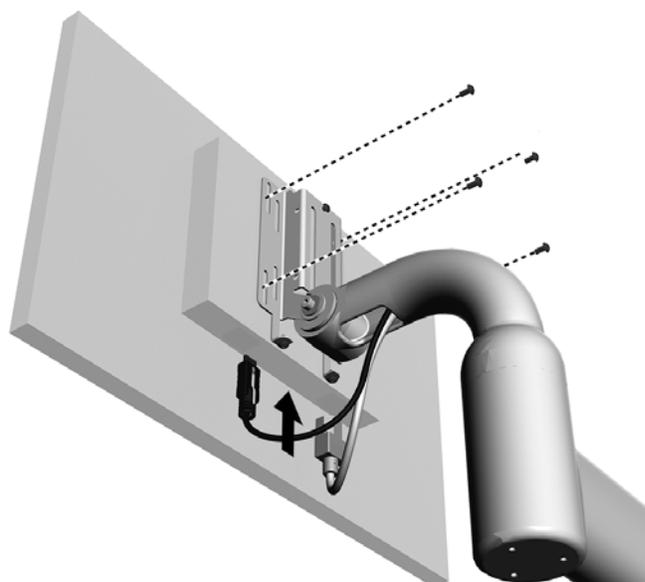
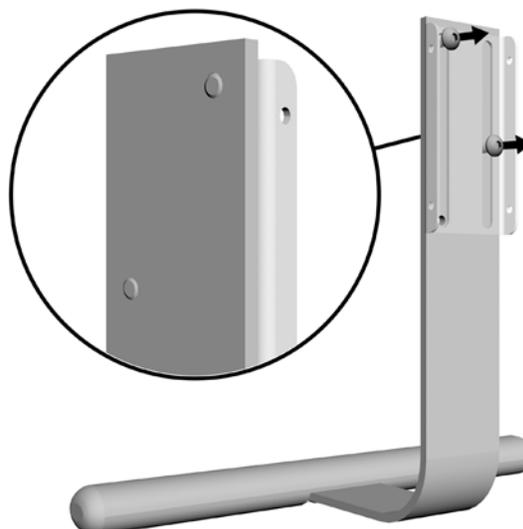
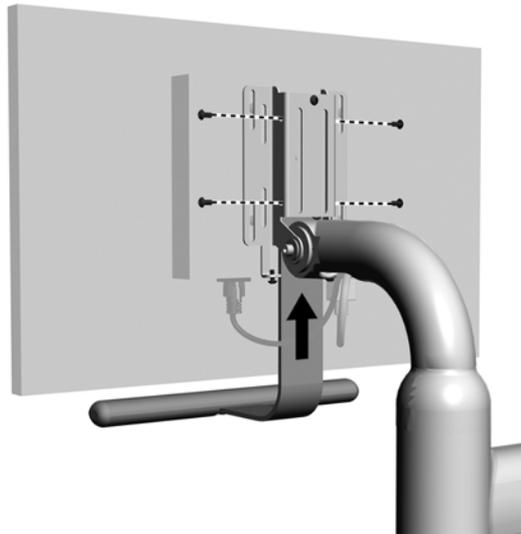


図76. モニターマウントハンドルを取り付ける



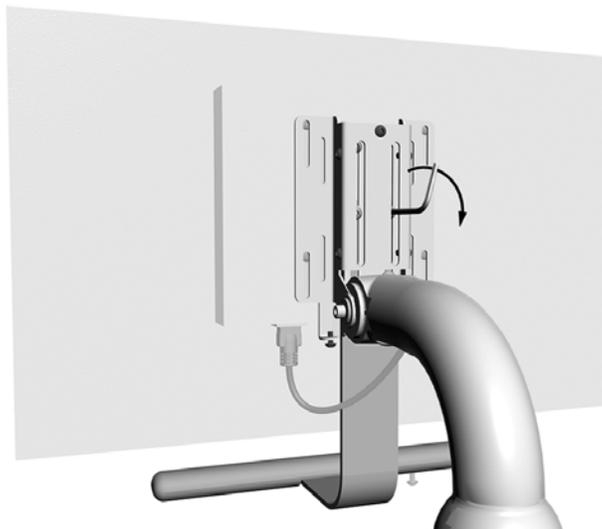
- 必要に応じてモニターを上方に傾けます (図77を参照)。
- ハンドルをVESAブラケットにスライドします。
- 3.175ミリ (1/8") の六角レンチを使って、ハンドルのブラケットをVESAブラケットに固定します。

図77. モニターマウントハンドルを取り付ける



- ユーザーの好みの位置へハンドルを動かします (図78を参照)。
- 3.96875ミリ (5/32") の六角レンチを使って、ハンドルを取り付けます。

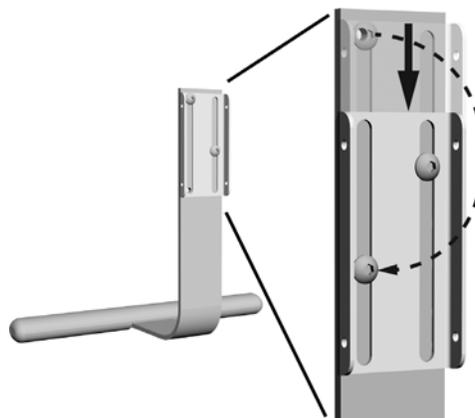
図78. ハンドル位置を調整する





注 ハンドルをモニターの近くに配置するには、ブラケットをハンドルの下部に移動します。3.96875ミリ (5/32")の六角レンチを使って、上部のネジをハンドルの下部へ移動します(図79を参照)。

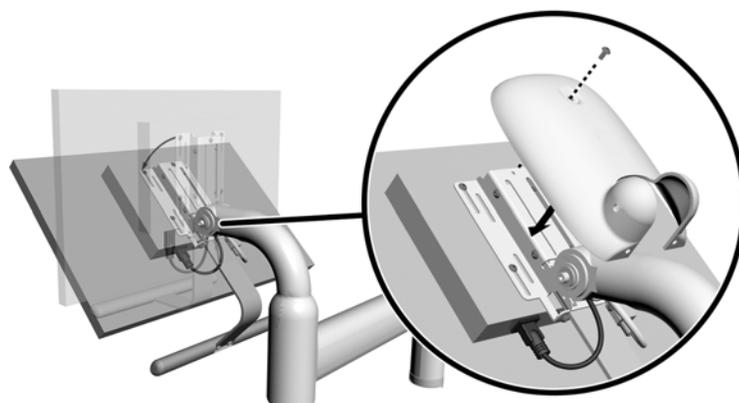
図79. ハンドルをモニターに近づける



背板カバーを取り付ける

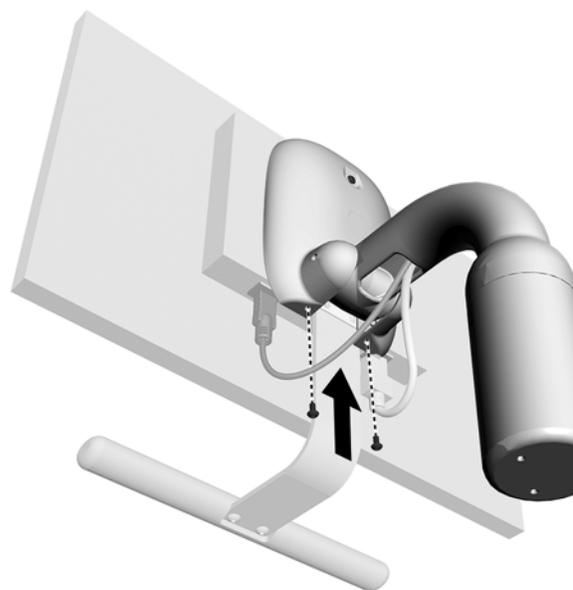
1. モニターをできるだけ下に傾けます(図80を参照)。
2. カバーをブラケットの上に置きます。
3. 3.175ミリ (1/8")の六角レンチを使って、上部のネジを取り付けます。

図80. 背板カバーを取り付ける



4. モニターを上を傾けます。
5. 3.175ミリ (1/8")の六角レンチを使って、カバーの下部に2つのネジを取り付けます。

図81. 背板カバーを固定する



次のステップ

- 47ページの「最終段階」に進みます。

ボックス10：歯科ライト

ボックス10には歯科ライトが収納されています。歯科ライトは3種類の構成で取り付けることができます。

- サポートセンターなしでサポートアームに取り付ける
- サポートセンターを使ってサポートアームに取り付ける
- サポートセンターとモニターマウントを使ってサポートアームに取り付ける

以下では、クォーツハロゲン歯科ライトを取り付ける方法について説明します。



重要 発光ダイオード(LED)歯科ライトを設置する場合は、歯科ライト付属のサービスガイドの指示にしたがってください。

次の手順では、サポートセンターが含まれている場合に、それを取り付けたことが想定されています。

ライト支柱を取り付ける

この手順はすべての構成に共通です。



危険 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、感電する恐れがあります。



警告 この手順を開始する前に電源をオフにしないと、装置に損傷を与えたり、死亡を含む人身事故を起こす恐れがあります。

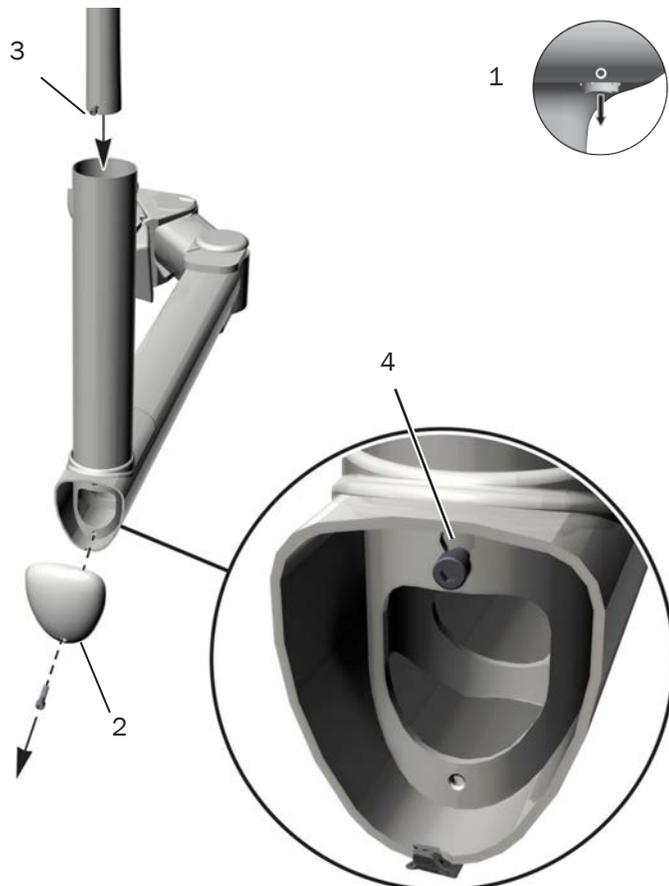
1. システムの電源をオフにします。
2. サポートアーム内のエンドキャップを外します(図83を参照)。
3. ネジの付いている側を下にしてライトの支柱を差し込みます。
4. ネジの頭をキーホールに差し込みます。

図82. 歯科ライト



歯科ライトとオプションのスピットンおよびモニターマウント

図83. サポートアームにライト支柱を取り付ける



5. 支柱の上部をアームの端とは反対の側に押し込みます (図84を参照)。
6. 支柱のベースでネジをしっかりと締めます。

次のステップ

- モニターマウントを取り付ける必要がない場合は、42ページの「固定リングを取り付ける」に進みます。
- サポート側モニターマウントを取り付ける必要がある場合は、「サポート側モニターマウントを取り付ける」に進みます。

サポート側モニターマウントを取り付ける

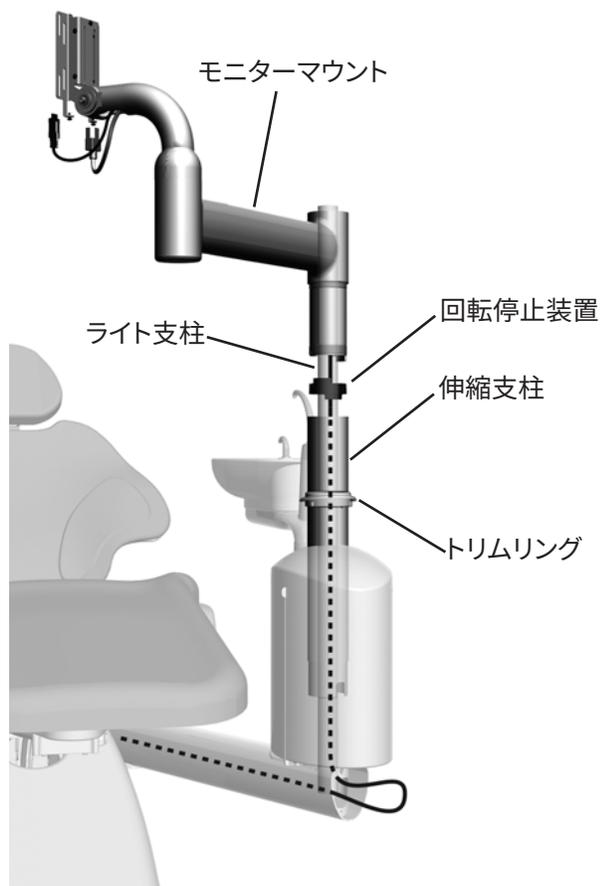
サポート側モニターマウントは、歯科ライトの前に取り付ける必要があります。モニターマウントはボックス9に収納されています。

1. 伸縮支柱を先の細くなっている先端からサポートセンターポストに差し込みます。定位置に落ち込むまで回転させながら差し込みます (図85を参照)。
2. 伸縮支柱に回転停止装置を差し込みます。停止装置は太い方が下になるように位置合わせしてください。
3. 伸縮支柱にトリムリングを取り付けます。
4. 伸縮支柱にモニターマウントを取り付けます。
5. モニターマウントからサポートアームにモニターケーブル (ビデオケーブルと電源ケーブル) を通し、伸縮支柱とライト支柱間にケーブルを配線します。
6. サポートアームからチェアのリフトアームを通してフロアボックスまでモニターケーブルを配線します。ケーブルのおよそ457ミリ (18") がモニターマウントアームのモニターの端部から垂れ下がるように残します。
7. ビデオケーブルに適したビデオ電源に接続し、モニター電源ケーブルをメインの電源に接続します。

図84. ライト支柱を固定する



図85. サポート側モニターマウントを取り付ける





注 システムに口腔内カメラが含まれる場合は、カメラビデオケーブルをデリバリーシステムからモニターへ至るまで通管で通さなければなりません。

固定リングを取り付ける

1. UPという文字が上になるようにして固定リングを取り付けます (図86と図87を参照)。
2. サポートセンター付きのシステムの場合は、サポートセンターの上部にトリムリングを取り付けます (図86を参照)。



ヒント 標準ドライバーを使用すると、トリムリングを正しく取り付けるのに便利です。

3. トリムカバーを取り付けます。

図87. 固定リングを取り付ける

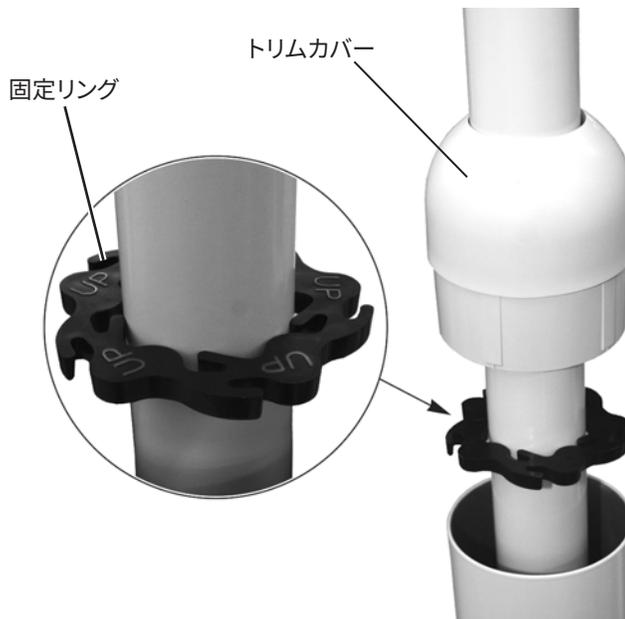
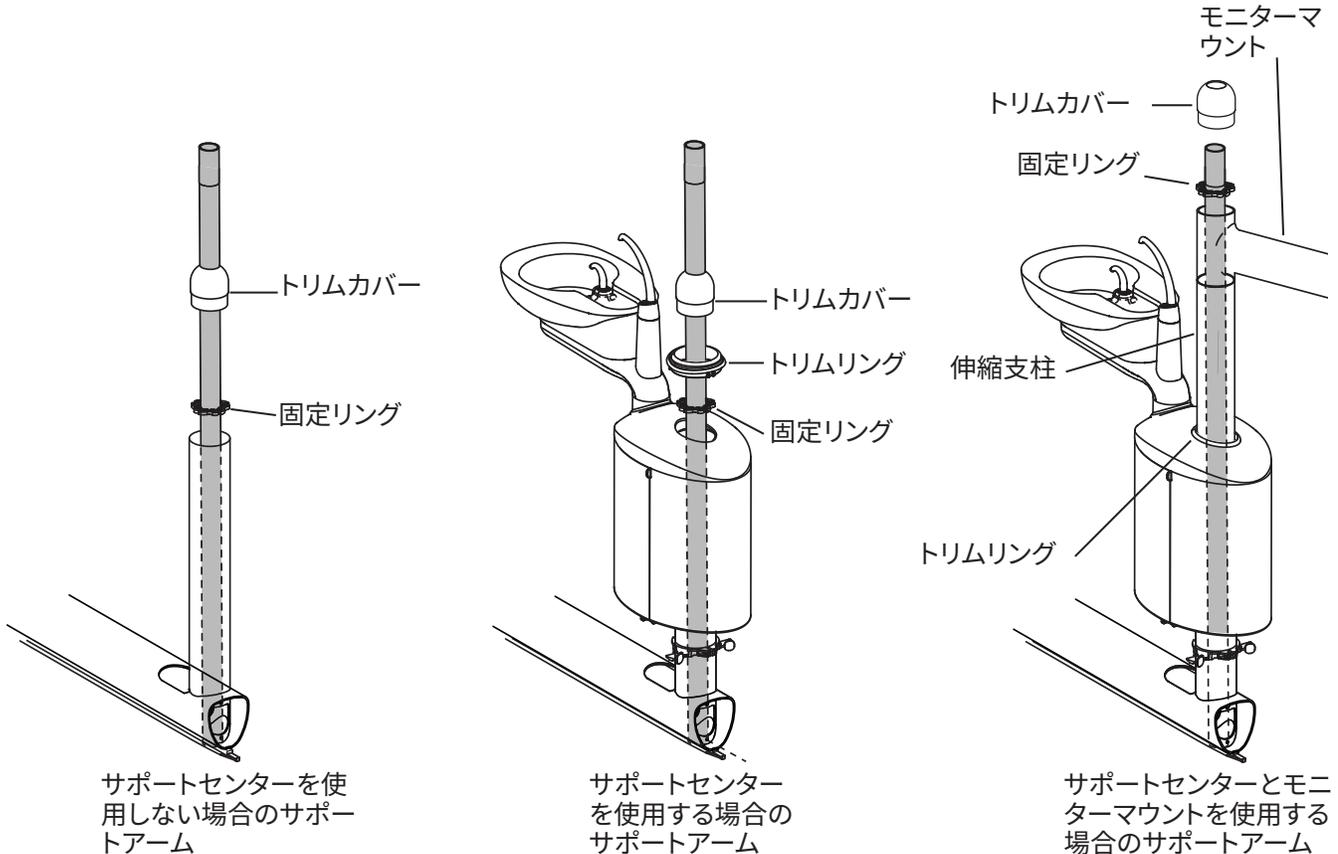


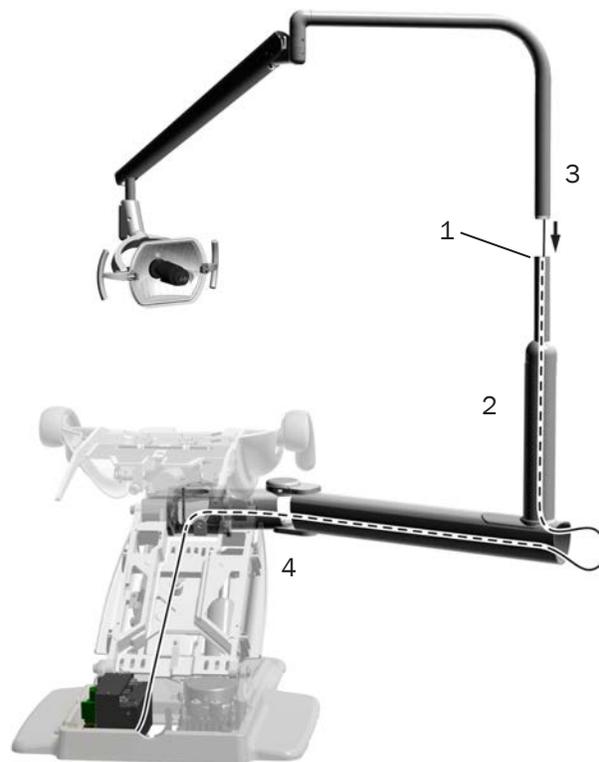
図86. 固定リング、トリムリング、トリムカバーの位置



ライトケーブルを配線する

1. キットに含まれる潤滑油をサポートアーム支柱の内側に塗ります (図88を参照)。
2. ライトケーブルを支柱に通します。
3. 支柱にライトを差し込みます。
4. ライトケーブルをサポートアームからリフトアームに通し、下部の電源装置まで引き回します。

図88. ライトケーブルを配線する



5. ストップスイッチのチューブをサポートアームの切り込みに差し込みます (図89を参照)。

図89. ストップスイッチのチューブを取り付ける



- サポートアームにエンドキャップを取り付けます (図90を参照)。

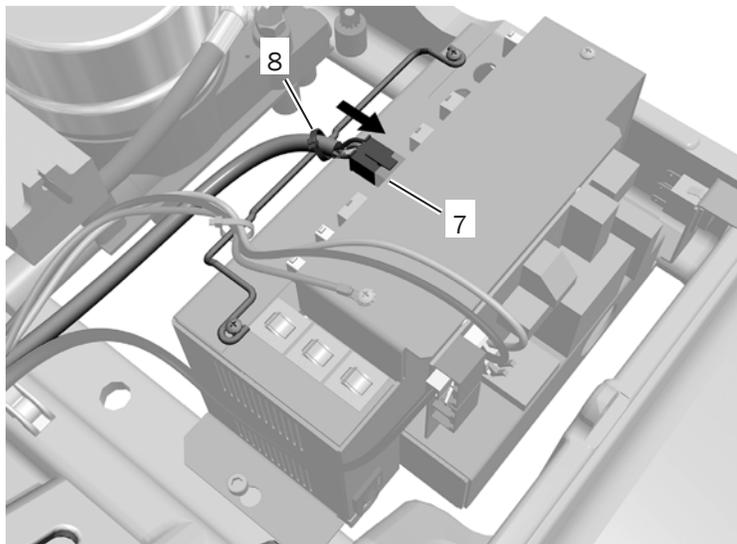
図90. エンドキャップを取り付ける



注意 回路基板は静電気による損傷を受けやすい部品です。回路基板に触れる場合、あるいは回路基板への接続または回路基板からの接続を行う場合は、静電放電(ESD)対策が必要です。回路基板の取り付けは、必ず、電気技師または適切な資格を持った整備担当者が行ってください。

- ケーブルを電源の赤いコネクタに接続します (図91を参照)。
- ケーブル留めでケーブルをペイルに固定します。

図91. 歯科ライトケーブルを電源に接続する



歯科ライトフレックスアームの釣合いを調整する

1. エンドキャップを取り外します (図92を参照)。
2. カバーを固定している3本のネジを取り外します。
3. カバーを取り外します。
4. バネの端のナットを調整します。
歯科ライトがずり上がる場合は、ナットを反時計回りに回します。
歯科ライトがずり落ちる場合は、ナットを時計回りに回します。
5. フレックスアームの上にカバーを戻します (まだ取り付けません)。この状態でずれがないかどうかを確認します。
6. ずれがなくなるまで手順4～5を繰り返します。



注 フレックスアームが上下方向に移動するのを制限するには、オプションで動作停止制限キット (部品番号90.1044.00) を設置する必要があります。

7. カバーを固定するネジを再度取り付けます。

水平方向の回転張力を調整する

1. 六角レンチを使って、水平方向の回転を調整します。スイッチハウジングの両側の上のネジから始めます (図93を参照)。
2. ライトヘッドが簡単に動いてしまったり、所定の位置からずれてしまう場合は、ネジを時計回りに回して締めます。

斜軸の回転張力を調整する

斜軸の回転については、スイッチハウジングの底にあるネジを調節します (図94を参照)。

1. ライトヘッドが簡単に動いてしまったり、所定の位置からずれてしまう場合は、ネジを時計回りに回して張力を高くします。
2. ライトが動かしにくい場合は、ネジを反時計回りに回して緩めます。
3. 斜軸の動きをなくすには調整ネジを完全に締めます。

図92. フレックスアームの釣合いを調整する

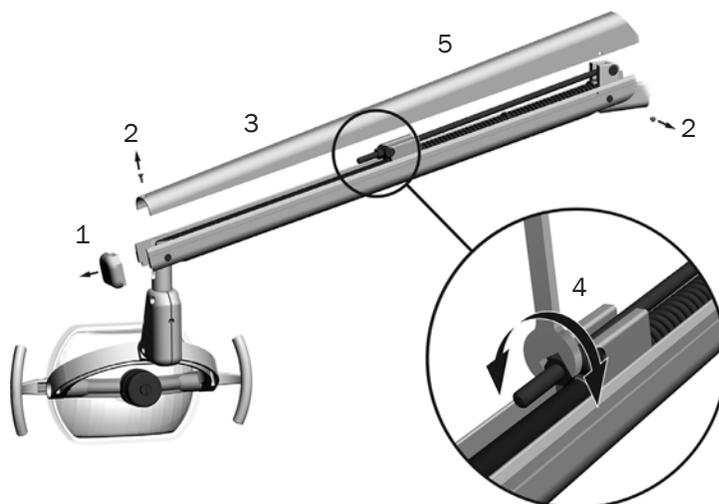


図93. 水平方向の回転張力の調整

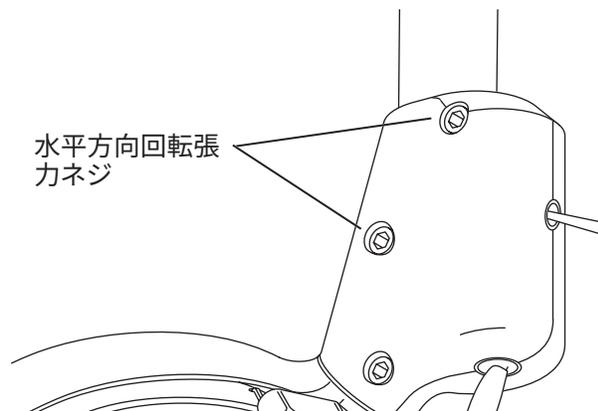
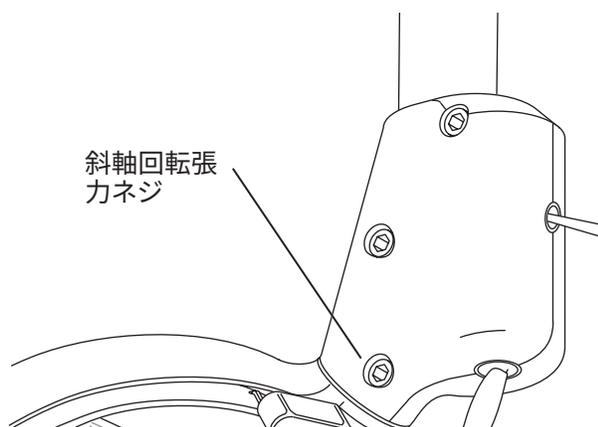


図94. 斜軸の回転張力の調整



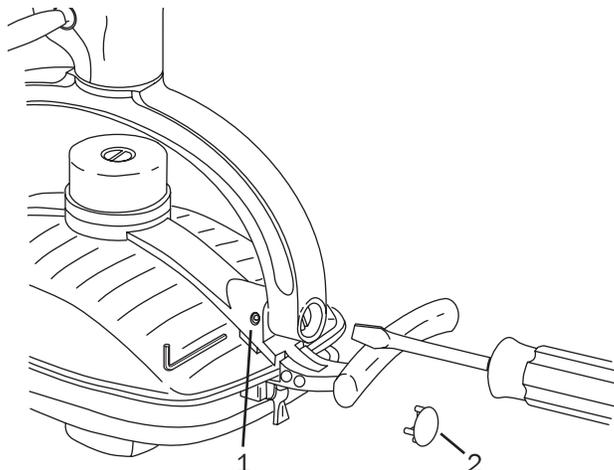
垂直方向の回転張力を調整する

1. 止めネジを緩めます (図95を参照)。
2. ライトヨークプラグを取り外します。
3. 大きいフラットブレードのネジ回しを使用して、ライトヨークプラグの下にある調整ネジを回します。
4. ライトヘッドが簡単に動いてしまったり、所定の位置からずれてしまう場合は、ネジを時計回りに回して張力を高くします。
5. ライトが動かみにくい場合は、ネジを反時計回りに回して緩めます。
6. 希望の固さになったら、止めネジを締め、ライトヨークプラグを元に戻します。



注 ライトヘッドの片側のみ調整してください。

図95. 垂直方向の回転の調節



モニターをモニターマウントに取り付ける

歯科ライトと併せてモニターマウントを取り付けた場合は、モニターを取り付けます。モニターを取り付ける方法については、37ページの「VESAアダプターをモニターに接続する」を参照してください。

最終段階

ここですべてのモジュールの取り付けが終わり、歯科医院を退去する前の最終段階を完了するときです。モジュールのレベルングと調整は、アセンブリや製品の設置を正確に行うことと同様に重要です。正確なレベルングを行うことで、歯科医師とスタッフは歯科ユニットを目的通りに使用することができます。

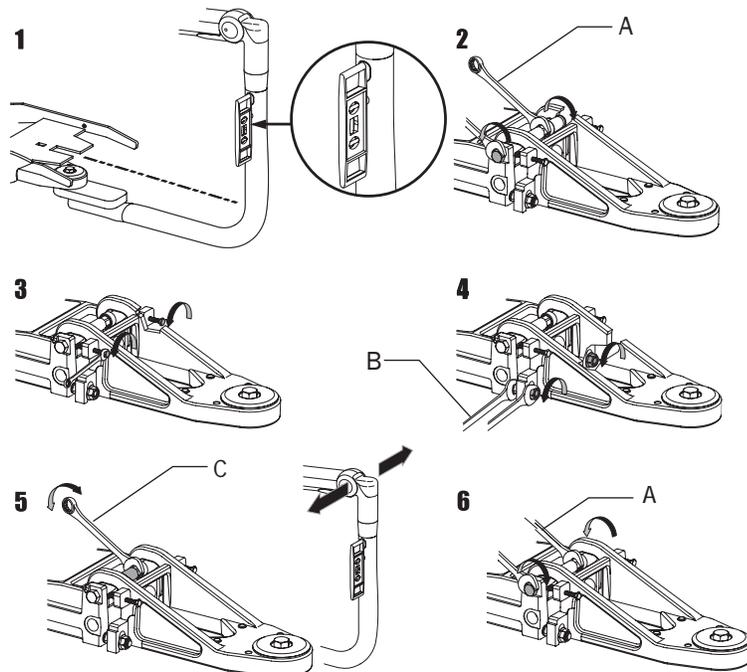
レベルング

正面取付部アームで最終レベルングを開始し、次に両側に取り付けられたモジュールに移り、徐々に完成して行きます。

正面取付部アームを水平にする

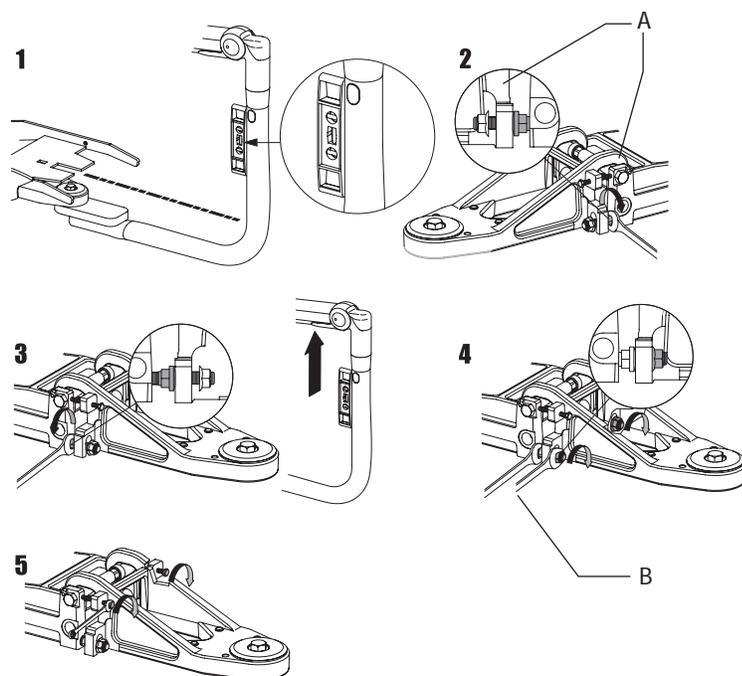
1. 左右のレベルングを行います (図96を参照)。
 - (1) アームを中央にし、アームの片端上に水準器をセットします。
 - (2) 19.05ミリ (3/4") のスパナを使ってカムを定位置に固定し、左右のカムボルトを緩めます。
 - (3) 左右の11.1125ミリ (7/16") の固定ボルトを両方とも緩めます。
 - (4) 前後のレベルングボルトを定位置に固定し、左右の19.05ミリ (3/4") のフランジナットを緩めます。
 - (5) 19.05ミリ (3/4") のスパナを使って、左右のレベルング用のカムを回転させます。
 - (6) カムを正しい位置で動かさないようにして、左右のカムボルトを締めます。
2. 前後を水平にします (図97を参照)。
 - (1) アームを中央に移動し、固定アームの中心に向けて水準器を置きます。
 - (2) 左右のナットを緩めます。
 - (3) 前後のレベルングを行うには左右のレベルングボルトを交互に調整してください。
 - (4) レベルングボルトを正しい位置で動かさないようにし、左右のナットの両方を締めて取付を固定します。
 - (5) 左右の11.1125ミリ (7/16") の固定ボルトを締めます。

図96. 左右を水平にする



(A) カムを正しい位置で動かさないようにする、
(B) ボルトを正しい位置で動かさないようにする、(C) 回転する

図97. 前後を水平にする



(A) 正面取付部、(B) ボルトを正しい位置で動かさないようにする

デリバリーシステムの水平調整

1. 前後を水平にします。

- (1) 装置のスイッチを入れてデリバリーシステムを下げます。デリバリーシステムを中央に移動し、チェアおよびフレックスアームと位置を揃えます (図98を参照)。
- (2) デリバリーシステムカバーを上げて、水準器をコントロールヘッドの上にセットします。
- (3) 前後を水平にするため調整ネジを締めるか緩めるかしてください。

2. 左右を水平にします。

- (1) デリバリーシステムを下ろして、デリバリーシステムカバーを上げ、デリバリーシステムのフレーム上に水準器をセットします (図99を参照)。
- (2) 左右を水平にするため2本の水平調整ネジを交互に締めたり緩めたりしてください。
- (3) デリバリーシステムが水平になったら、両方のネジを締めます。

図98. デリバリーシステムの前後を水平にする

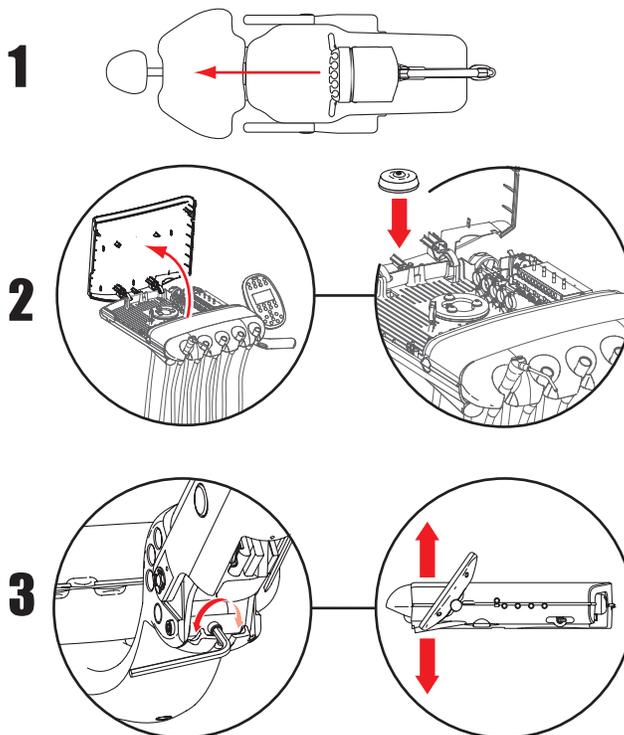
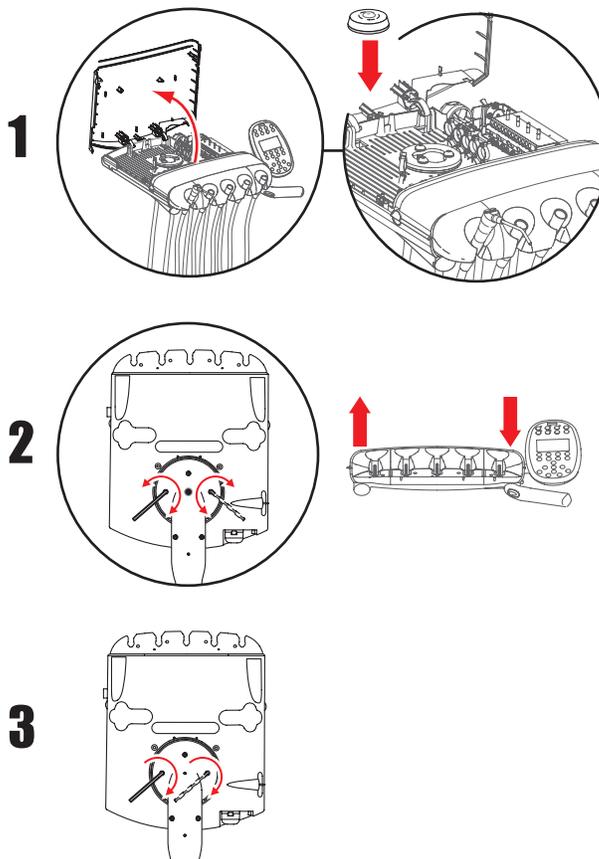


図99. デリバリーシステムの左右を水平にする



デリバリーシステムトレイの水平の調整

1. 調整ネジを使って左右を水平にします (図101を参照)。
2. 調整ネジを使って是語を水平にします (図102を参照)。

サポートリンクを水平にする

1. リフトアームから安全プレートを外して、サポートリンクの両側の4本の取り付けボルトをすべて緩めます (図100を参照)。
2. ロックナットを緩めます。
3. サポートアームの上に水準器を置きます。
4. サイドサポートが水平になるよう六角ボルトを調整します。
5. ロックナットを締めます。
6. 取付を固定するため4本のすべてのボルトを締めて、リフトアームに安全プレートを戻します。

図100. サポートリンクを水平にする

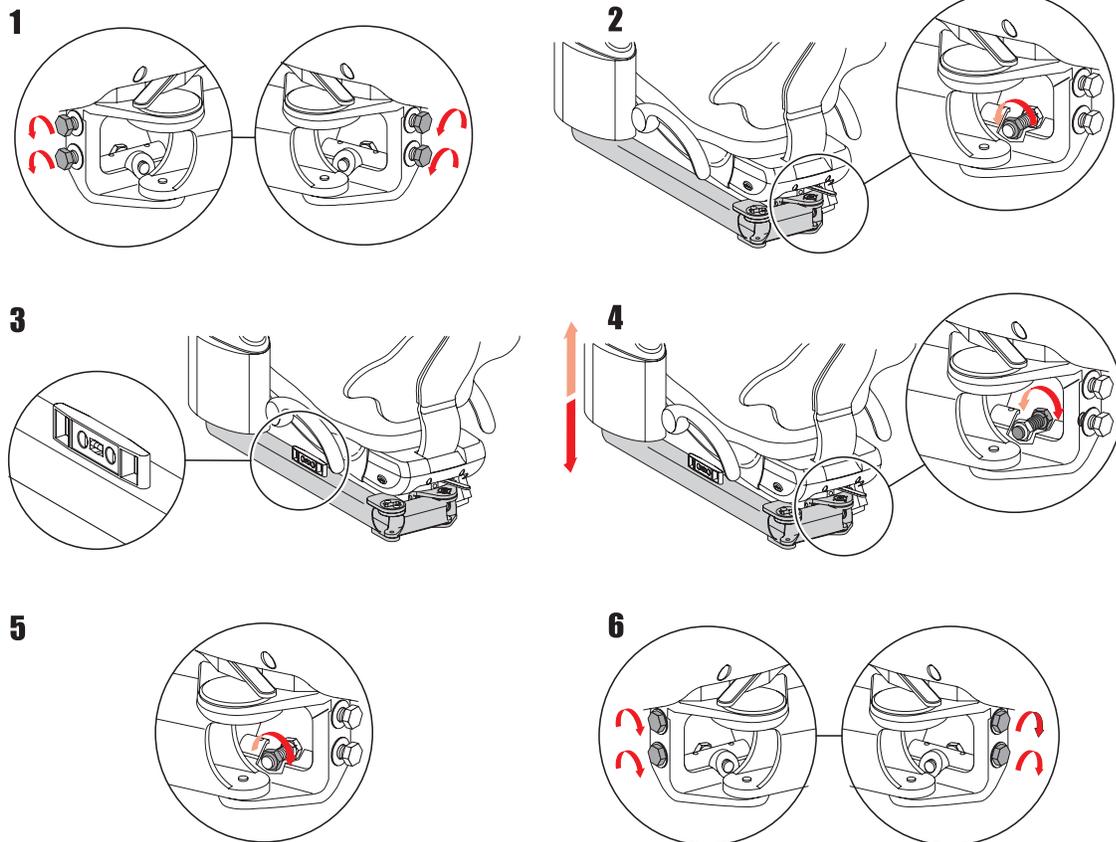
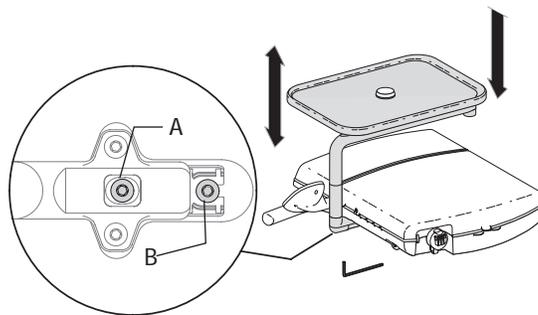
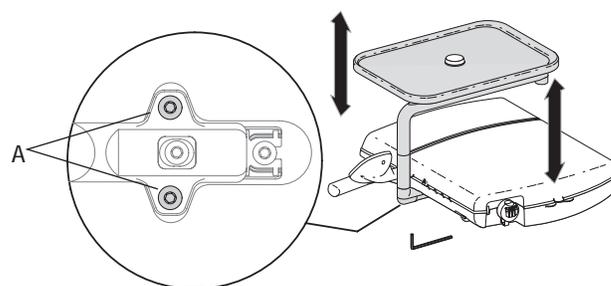


図101. トレイの左右を水平にする



(A) レベリングスクリュー、(B) 取付ネジ調整しないでください

図102. トレイの前後を水平にする



(A) レベリングスクリュー

モニターを設置して水平にする

1. モニター取付ブラケットスクリューを緩めます。
2. モニターの上に水準器を置きます。モニターを水平に置きます。
3. ネジを締めます。

調整

デリバリーシステムの取り付けが完了したら、以下の調整を行うことができます。

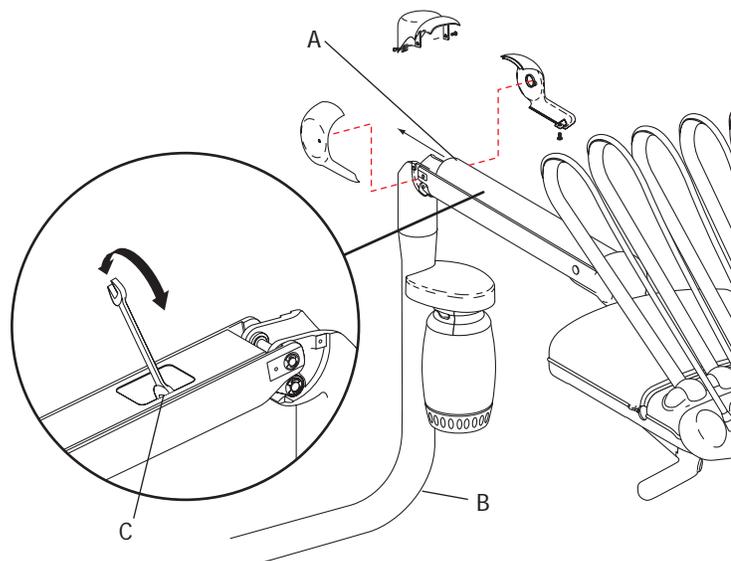
- サポート側トレイ・ホルダーの張力
- フレックスアームの釣合い
- ハンドピースコントロール
 - 水冷却
 - 空気冷却
 - 空気送出流量

フレックスアームの釣合いを調整します

主スイッチを切ったときコントロールヘッドがずれる場合はフレックスアームの釣合いを調整してください。

1. コントロールヘッドに通常使用時の荷重をかけます。ハンドピースを取り付け、器具と共にトレイをトレイ・ホルダーにセットします。
2. コントロールヘッドを最下部まで動かします。
3. 主トグルスイッチを切ります。コントロールヘッドが上下にずれないことを確認します。
4. コントロールヘッドがずれる場合は、コントロールヘッドを下げ、固定アームとフレックスアームからカバーを取り外します（図103を参照）。
5. 11.1125ミリ (7/16") のレンチを使ってネジの張力を調整します。
 - アームが上方にずれる場合はナットを緩める
 - アームが下方にずれる場合はナットを締める
6. 調整を再チェックします。

図103. フレックスアームの調節



(A) フレックスアーム、(B) 固定アーム、(C) 調整ネジ

ハンドピースコントロールの調整 水冷却の流量

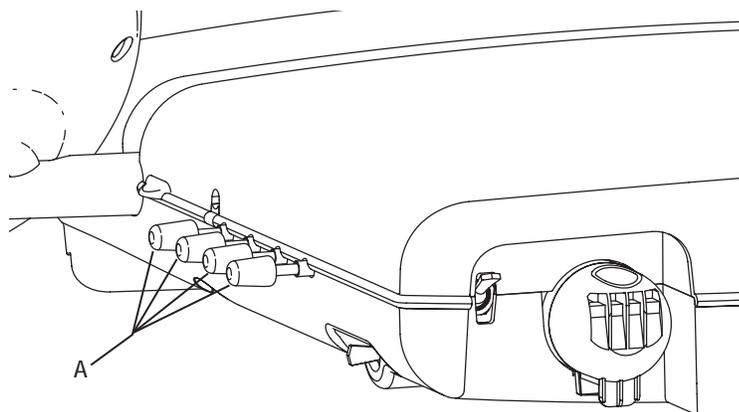
冷却水のフローコントロールは、各ハンドピースへの流量を調節します。調整キーまたは六角レンチを使って調整を完了します（図104を参照）。

1. 空気送出バルブ（53ページの図106を参照）、空気冷却バルブ（52ページの図105を参照）、冷却水の流量計測バルブ（図104を参照）を閉めます。
2. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
3. 水冷却流量コントロールを設置します。
4. 調整キーまたは六角レンチを水冷却流量コントロールに挿し込んでハンドピースのための調整をします。
5. 選択したハンドピースの水冷却をオンにします。
6. フットコントロールを踏んでハンドピースを起動します。
7. ユーザーのニーズに合わせて水冷却流量を調整します。
 - 流量を減らすには調整キーを右に回します。
 - 流量を増やすには調整キーを左に回します。



注 通常は、ハンドピースポジションの1つはドライです。
A-decは発注時にハンドピースの設定をカスタマイズします。

図104. 水冷却の流量調整位置



(A) ハンドピース位置に関連する水冷却の流量コントロール

空気冷却流量

空気冷却の流量コントロールでは、すべてのハンドピースへの空気冷却流量を調整できます。調整キーまたは3.175ミリ (1/8") の六角レンチを使って調整を完了します (図105を参照)。

1. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
2. 空気冷却コントロールを設置します。
3. デラックスタッチパッドが取り付けられている場合は、これを使って空気冷却がオンになっていることを確認します。
4. 調整キーまたは六角レンチを空気冷却流量コントロールに挿入します。



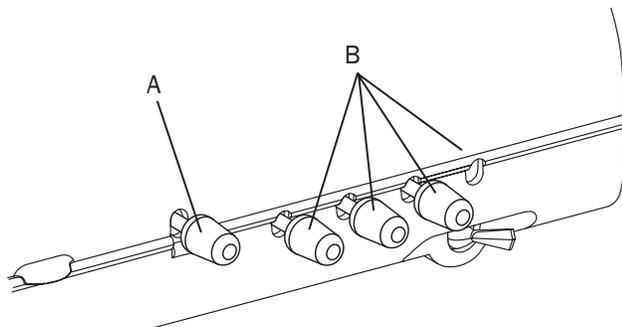
注 空気送出または空気冷却調整キーを回しすぎないようにしてください。キーの軸がコントロールブロックから外れてしまうことがあります。

5. フットコントロールを踏んでハンドピースを起動します。
6. 霧状の水冷却がユーザーの希望通りになるまで空気冷却流量を調整します。
 - 流量を減らすにはコントロールを右に回します。
 - 流量を増やすにはコントロールを左に回します。



注 1つのハンドピースの空気冷却を調整することにより、すべてのポジションの設定が変更されます。

図105. 空気冷却の流量を調整する



(A) 空気冷却流量コントロール、(B) 水冷却流量コントロール (ウェットハンドピースが3台、ドライハンドピースが1台ある場合の構成)

空気送出圧

空気送出圧コントロールは、各ハンドピースの圧力を調節します（図106を参照）。空気圧ゲージデジタル空気送出圧ゲージは、回路基盤上のコントロールヘッドの内側に設置されています。

ゲージの単位はpsiで、アクティブなハンドピースの空気送出圧を示します（1 bar = 14.5 psi、99.97398056 kPa）。

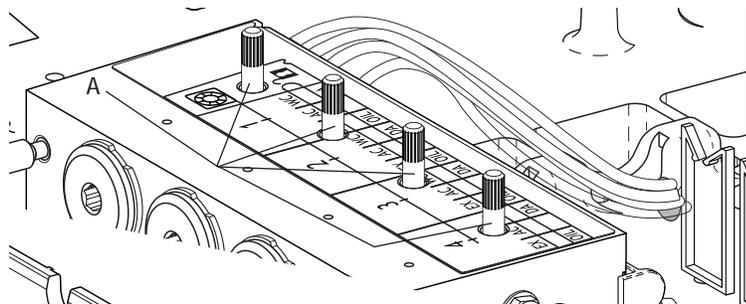


注 空気送出圧を正確に測定するには、ハンドピースチューブに付属のハンドピース圧力ゲージを使用します。

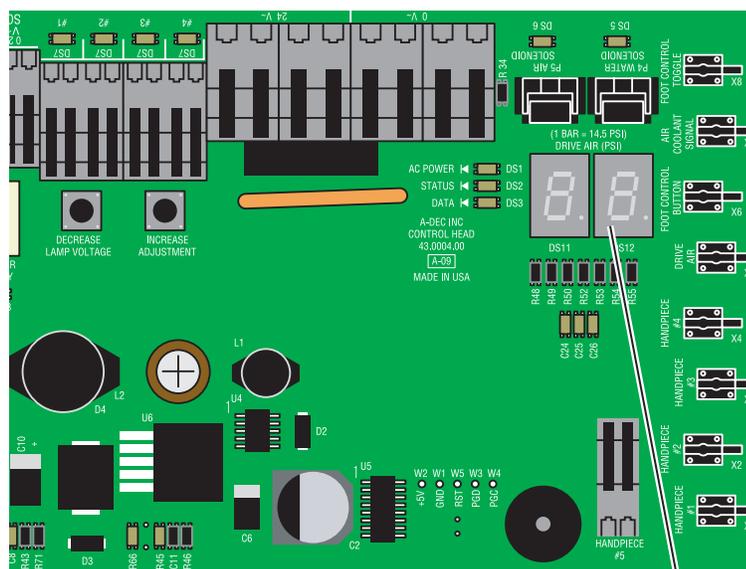
空気送出圧を調整するには：

1. 水冷却をオフにします。
2. コントロールヘッド内に空気送出圧のゲージとコントロールがあります。
3. フットコントロールを踏みます。
4. ハンドピースを作動させながらゲージの動きを見て、ハンドピースのメーカーの仕様にしたがってハンドピースの空気送出圧を調節します。
 - 流量を減らすにはコントロールを右に回します。
 - 流量を増やすにはコントロールを左に回します。

図106. 空気送出圧を調整する



(A) 空気送出圧の調整



A

(A) 回路基盤上のデジタル空気送出圧ゲージ



注 空気送出圧の仕様については、ハンドピース製造元が提供している文書を参照してください。

タッチパッドのコントロール

お使いのA-dec 500システムには、標準またはデラックスタッチパッドが付属しています。標準タッチパッドは、チェアー、スピットン、および歯科ライト機能を制御します。デラックスタッチパッドはこれに加え、ハンドピース、電動モーター、その他の複数のオプションを操作できます（図107を参照）。



注 タッチパッド上の記号はA-decが所有権を保有しています。

ステータスアイコン

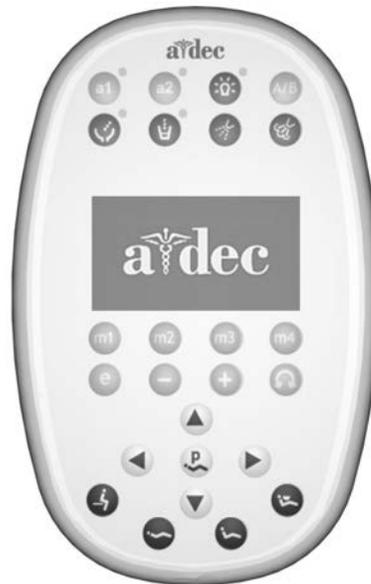
デラックスタッチパッドのA-decロゴは、次のようにシステムステータスを表示します。

- 青く点灯 — 電源がオンで正常に操作中（図108を参照）。
- 点滅 — チェアー停止プレートまたはスピットンのリミットスイッチが起動中。障害物をいったん取り除くとアイコンは青色点灯に戻ります。
- 2度点滅 — ジャンパーがチェアーの回路基盤上で工場出荷時の設定位置に残っていることを示します。ジャンパーをいったん取り除くとアイコンは青色点灯に戻ります。

図107. 標準タッチパッドとデラックスタッチパッド

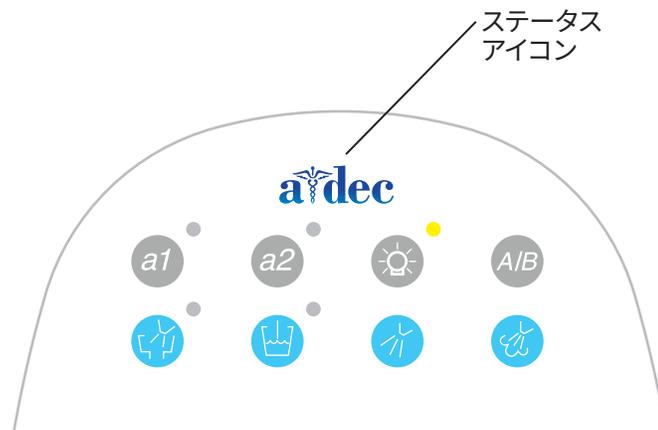


標準タッチパッド



デラックスタッチパッド

図108. ステータスアイコン



チェアーのポジション設定

タッチパッドを使って、A-decチェアーのポジションの手動制御とプログラム制御を行います。タッチパッドタッチパッドの方向矢印ボタンを使って、チェアーの背板とベースの高さを手動で調節できます(表4を参照)。

チェアーのプログラム可能な4つのボタンは、カスタマイズが簡単で、工場出荷時のプリセット位置に自動的にチェアーを動かします(表5を参照)。

チェアーのプリセットポジションをプログラムする

注 フットスイッチまたはタッチパッドのいずれかのチェアーのポジションボタンを押すと、チェアーの動きをいつでも止めることができます。

注 チェアーのプリセットのポジション機能を使用するときは、通常の患者のケアに関する注意を怠らないようにします。

座る/降りる、治療1、および治療2のチェアープリセットポジションをプログラムするには:

1. チェアーを希望のポジションに手動で動かします(図109を参照)。
2. プログラムボタン( または )を押して放します。ピープ音が1回鳴れば、プログラミングモードになったことを示します。
3. リセットしたいチェアーのポジションボタンを押します(たとえば、、または座る/降りるの場合は  を押す)。ピープ音が3回鳴り、新しい設定がプログラムのメモリに記憶されたことを示します。

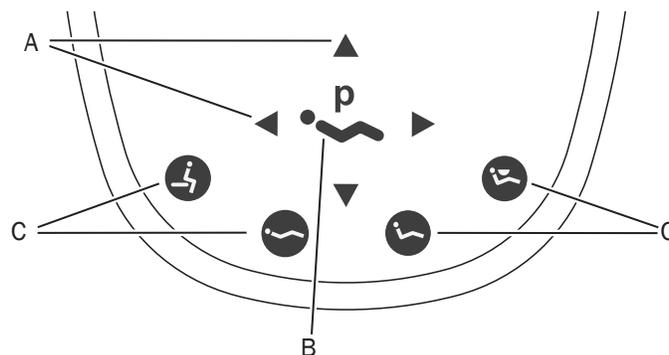
表4. チェアーの手動ボタン

アイコン	対応
	背板を下げる
	ベースを下げる
	背板を上げる
	ベースを上げる

表5. チェアーのプログラム可能ボタン/工場出荷時のチェアーのポジション

ボタン	ポジションの説明
 	座る/降りる: チェアーの座る/降りるのポジションを自動的に設定し、歯科ライトをオフにします。椅子を開始/終了時のポジションに自動的に設定し、ライトをオフにします。
 	治療1: チェアーのベースと背板のポジションを自動的に下げ、歯科ライトをオンにします。
 	治療2: チェアーのベースと背板のポジションを自動的に決め、歯科ライトをオンにします。
 	X線/洗浄: X線/洗浄ポジションと現在のチェアーポジションを自動的に切り替えます。チェアーをX線/洗浄ポジションにすると歯科ライトが消灯し、前のポジションに戻すと点灯します。

図109. タッチパッドのチェアーポジションボタン



- (A) チェアーの手動ボタン、(B) プログラムボタン、
(C) プログラム可能なチェアーのプリセットボタン

X線/洗浄ボタンをカスタマイズする

X線/洗浄ボタンは、X線/洗浄またはその他のプリセットポジションとして機能します（治療3）。X線/洗浄ボタンの機能を変更するには：

1. プログラムボタンと、**3**またはを同時に3秒間押します。
 - ビープ音が1回鳴ったときは、ボタンが治療3に設定されたことを示します。
 - ビープ音が3回鳴り、X線/洗浄ボタンがX線/洗浄機能として設定されたことを示します（X線/洗浄と元のポジションを切り替えます）。
2. プリセットポジションをプログラムします。55ページの「チェアーのプリセットポジションをプログラムする」を参照してください。



ヒント X線/洗浄がプリセットポジションに変更されると、治療1と2ボタンと同じ働きをします。

スピットンの機能

表6は、コップ給水ボタンとボウル洗浄ボタンについて説明しています。

コップ給水とボウル洗浄を設定する

コップ給水とボウル洗浄のタイミングを設定するには：

1. プログラム・スピットンボタンを押して放すか、スピットンの注入口付近にあるコップ給水ボタンとボウル洗浄ボタンの両方押し続けます。1回の警告音は、プログラミングモードが準備できたことを知らせます。
2. 必要な時間だけ、コップ給水またはボウル洗浄ボタンを押したままにします。
3. ボタンを放します。セットアップが完了すると、ビープ音が3回鳴ります。



注 白い標準タッチパッドを取り付けている場合、補助ボタンを使ってコップ給水とボウル洗浄の機能も制御できます。詳細については、62ページの「補助器具制御ボタン」を参照してください。

表6. コップ給水とボウル洗浄ボタン

ボタン	説明
 	<p>コップ給水ボタン:スピットンからコップに注入される流量を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイミング操作にする場合はコップ給水ボタンを押します。初期設定は2.5秒です。 • 手動にするにはコップ給水ボタンを押したままにします。
 	<p>ボウル洗浄ボタン:スピットンボウルに洗浄水を供給します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイミング操作にする場合はボウル洗浄ボタンを押します。工場出荷時の初期設定は30秒の洗浄です。 • 手動にするにはボウル洗浄ボタンを押したままにします。 • 2秒以内にボウル洗浄ボタンを2回押すと、動作は継続洗浄モードに切り替わります。洗浄ボタンを1回押すと継続ボウル洗浄を停止します。

歯科ライト

歯科ライトのオン/オフをタッチパッドまたは歯科ライトのどちらかから行うことができます。タッチパッドの歯科ライトボタンでは輝度設定を変更できます。

ハロゲン歯科ライト:  を押して、高強度と複合、あるいは中強度と複合を切り替えます。歯科ライトが複合モードの場合、インジケータライトが点滅します(図110を参照)。

発光ダイオード(LED) 歯科ライト:  を押して放し、目的の輝度モードを選択します。ライトが光重合防止モードである場合、インジケータライトが点滅します(図110を参照)。

歯科ライトを消灯するには、 を押し続けます。

歯科用ライト自動オン/オフ

歯科ライトには自動オン/オフ機能があります。プログラムによるチェアのポジション設定機能を使用した場合、歯科ライトはチェアの背板が稼働位置に達すると点灯します。座る/降りるボタン( または ) または X線/洗浄ボタン( または ) を押すと、歯科ライトが自動的に消灯します。

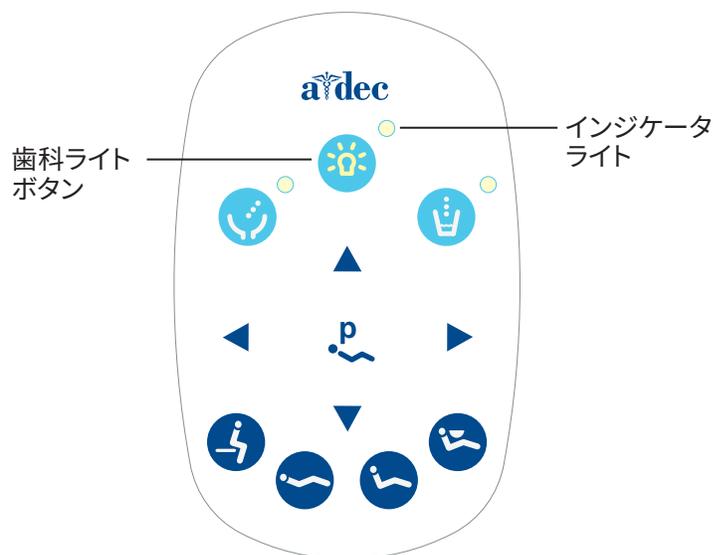


ヒント X線/洗浄ボタンをプリセットポジションに変更すると、歯科ライトの自動機能は治療1および治療2ボタンと同じ働きをします。

アクティブ/オフにするには:

-  とプログラム・ボタン( または ) を同時に3秒間押し続けます。ビープ音が1回鳴り、歯科ライトの自動機能がオフになったことを示します。ビープ音が3回鳴り、歯科ライトの自動機能がオンになったことを示します。

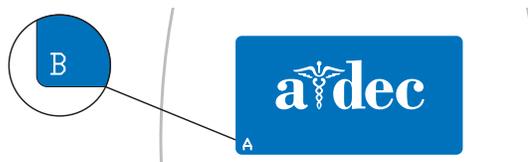
図110. 歯科ライトのモード



A/Bボタン

デラックスタッチパッドには、別個の2セットのプログラム設定ができるA/Bボタン (A/B) が付いています。タッチパッドのディスプレイで現在アクティブになっているセットがAまたはBとして表示されます (図111を参照)。

図111. A/Bの選択



電気ハンドピース設定 (デラックスタッチパッドのみ)

標準モードのプログラム

ホルダーからハンドピースを持ち上げ、電動モーターを起動させます。タッチパッドの画面に表示される設定は、そのハンドピースを前回使用したときのものです。電動モーターには、正確なプリセット速度を選択できます。表7は、電動モーターの初期設定の一覧です。

デラックスタッチパッドでは、メモリボタンを使って特定のRPM (1分間当たりの回転数) を設定することができます。A/Bボタンを使って、それぞれのメモリボタンに2セットの設定をプログラムできるので、ハンドピースごとに合計8つのカスタム設定が可能です (歯内治療モードではさらに8つのメモリ設定ができます)。

表7. 電動モーター回転速度/空気および水冷却のプリセット (標準モード)

メモリ設定	プリセット速度	空気冷却	水冷却
m1	2,000 RPM	オン	オン
m2	10,000 RPM	オン	オン
m3	20,000 RPM	オン	オン
m4	36,000 RPM	オン	オン



注 デリバリーシステムを2人の人が使用する場合、メモリ設定を変更する前に、必ず正しいオペレータセット (AまたはB) を選択します。タッチパッド画面で現在アクティブになっているセットがAまたはBとして表示されます (図111を参照)。

ハンドピースを設定するには (図112を参照) :

1. マイナス (-) とプラス (+) のボタンを使って、RPMを調節します。タッチパッド画面にRPM値が表示されます (図112を参照)。
2. 必要であれば  または  を押して、水および空気冷却の設定を変更します。
3. 設定をメモリに入れるには  または  を押します。ビープ音が1回鳴ります。
4. m1、m2、m3、m4のいずれかを押して、目的のメモリ設定を選択します。セットアップが完了すると、ビープ音が3回鳴ります。

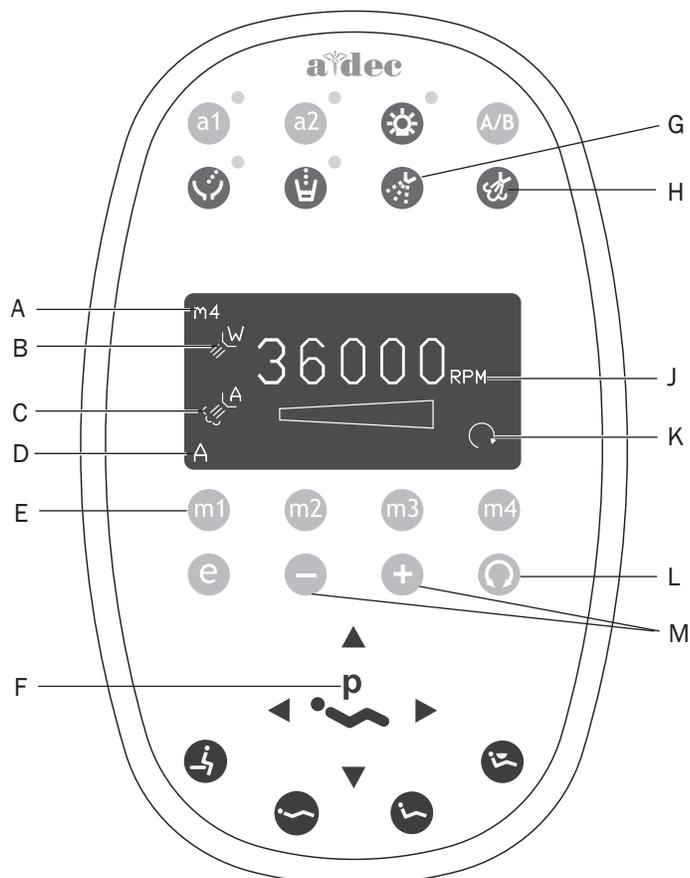
フォワード/リバースボタン

フォワード/リバースボタン (図112を参照) は、電動モーターの回転方向を切り替えます。初期設定では、ハンドピースをホルダーに戻したとき、またはシステムの電源を切ったときには、ハンドピースがフォワードポジションになるように設定されています。リバースモードでは、スクリーンアイコンは点滅し続けます。



注 フットコントロールを使って、フォワード/リバースを切り替えることもできます。モーターが停止したら、アクセサリ(チップ/空気)ボタンを軽く叩いて方向を変更します。

図112. 標準モードボタンと設定



項目	説明	項目	説明
A	メモリ設定インジケータ	G	冷却水ボタン
B	水冷却インジケータ	H	冷却空気ボタン
C	空気冷却インジケータ	J	速度制限設定
D	A/Bオペレータインジケータ	K	フォワード/リバースインジケータ
E	メモリボタン(m1~m4)	L	フォワード/リバーストグルボタン
F	プログラムボタン	M	調節ボタン

歯内治療モードのプログラム

歯内治療モードでは、特定のファイルと目的のハンドピース動作に基づいて設定を変更できます。タッチパッドウィンドウ内のアイコンはその設定を反映します（図113を参照）。

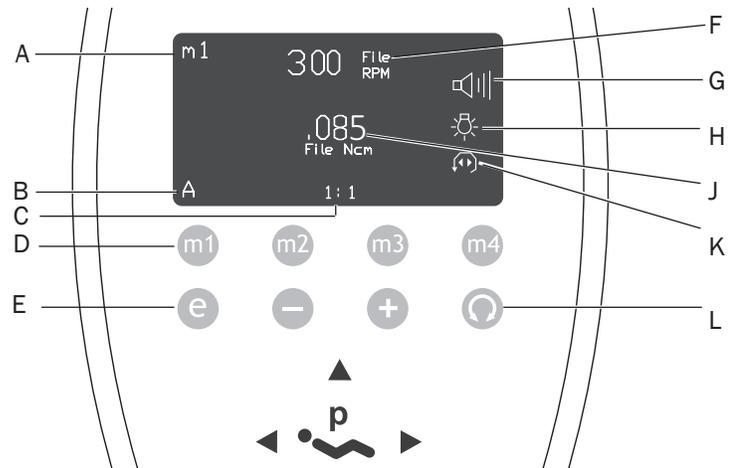


注 特定のファイルに関する回転速度制限やトルク制限については、ファイルのメーカーにお問い合わせください。

歯内治療メモリ設定をプログラムするには：

1. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
2. タッチパッド画面に歯内治療モードが表示されていない場合は、**e** または **E** を押します。
3. 歯内治療モードの設定を変更するには、プラス (+) またはマイナス (-) ボタンを押します。タッチパッド画面に白い逆再生アイコンが表示されます。
4. タッチパッド画面で設定間を移動するには、チェアポジションのボタンを押します。
5. 設定を変更するには、マイナス (-) またはプラス (+) ボタンを押します。
6. 回転速度制限、トルク制限、比率をメモリに記憶するには (オプション)、 または を押し、次に設定したいメモリボタンを押します。ピープ音が3回鳴り設定が完了します (m1からm4)。

図113. 歯内治療モードのボタンと設定



項目	説明	項目	説明
A	メモリ設定インジケータ	G	警報インジケータ
B	A/Bオペレータインジケータ	H	歯内治療ライトインジケータ
C	アタッチメント比率設定	J	ファイルトルク制限/単位インジケータ
D	メモリボタン (m1~m4)	K	フォワード/リバースとトルクモードインジケータ
E	歯内治療モードトグルボタン	L	フォワード/リバーストグルボタン
F	ファイルの回転速度設定		

表8に、タッチパッド画面の歯内治療モードのアイコンを示します。

表8. 歯内治療モードの設定

アイコン	設定	説明
	速度	ファイルの速度制限の設定値。詳細については、ファイルのメーカーにお問い合わせください。
	トルク	ファイルのトルク制限の設定値。詳細については、ファイルのメーカーにお問い合わせください。
	トルクユニット	Ncm(ニュートンセンチメートル)とgcm(グラムセンチメートル)を切り替えます。1つのハンドピースでこの設定を変更すると、すべてのハンドピースの設定が変更されます。 注: 1 Ncm = 102 gcm
	比率	ハンドピースの比率を設定します。詳細については、ハンドピースメーカーにご相談ください。
	空気冷却	オン/オフ アクティブになっている場合は、ハンドピースに冷却空気を提供します。
	水冷却	オン/オフ アクティブになっている場合は、ハンドピースに冷却水を提供します。
	光源	歯内治療用ハンドピースの光源の使用可能/使用不能を切り替えます。
	自動モード	1つのハンドピースでこの設定を変更すると、すべてのハンドピースの設定が変更されます。自動モードインジケータは、正回転/逆回転インジケータ内に表示されます。
	自動停止	ファイルがトルク制限に達すると、モーターは停止します。
	自動リバース	ファイルがトルク制限に達すると、モーターは停止してから方向が反転します。
	自動フォワード	ファイルがトルク制限に達すると、自動的にモーターが停止し、3回逆方向に回転した後で、元の方向に回転します。 注: ファイルがひっかかってしまった場合、このサイクルを3回繰り返した後、モーターが停止します。
	警報器	オン/オフ アクティブになっている場合は、トルク制限に近づくとき1回ピープ音が鳴り、ファイルが自動リバースになるとピープ音が2回鳴ります。1本のハンドピースの設定を調整することですべてのハンドピースの位置を変更することができます。

その他のハンドピース設定の選択

その他のシステムも選択できます。以下の設定の一括変更については、ご購入いただいた取扱店にご相談ください。

- **自動オフ遅延** — ハンドピースが自動的にオフになるまでのアイドル状態の秒数。初期設定は5秒です。フットコントロールを踏むことで遅延機能が再機能し、ランプを点灯します。したがって、フットコントロールを押し続ける限りライトは点灯し続けます。
- **光源自動オン/オフ** — この機能がアクティブになっている場合、ハンドピースをホルダーから取り出すとハンドピースのライトが自動的にオンになります。初期設定は、標準モードではライトが自動的にオン、歯内治療モードではオフのままになるよう設定されています。
- **電圧** — どの程度の明るさを希望するかによって、また電球メーカーの使用ガイドラインに沿って、各ハンドピースの光源の電圧を調節します。

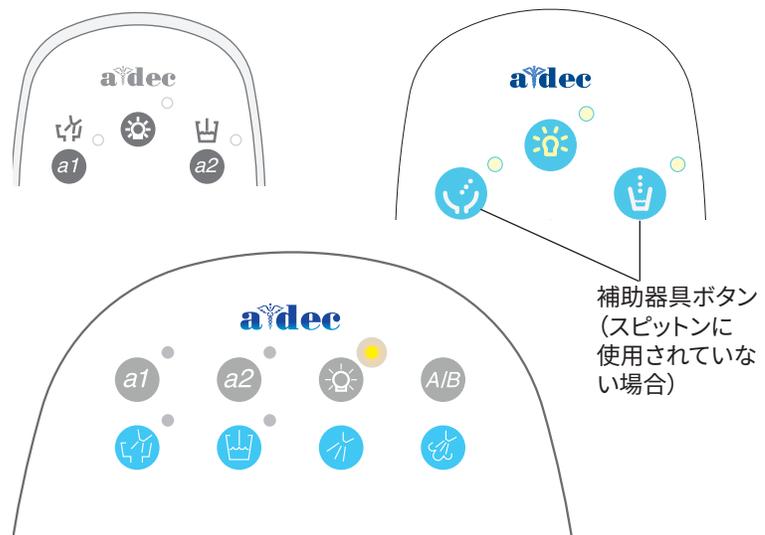
補助器具制御ボタン

お使いのシステムにA-decリレーモジュールが含まれている場合は、タッチパッドを使って2つの補助器具を起動できます。デラックスタッチパッドと標準タッチパッドでは、a1とa2のボタンを使ってこれらの器具を起動します(図114を参照)。白い標準タッチパッドを使うシステムでは、コップ給水ボタンとボウル洗浄ボタンを補助器具制御に使えます(56ページの注を参照)。

タッチパッドのヘルプメッセージ

ヘルプメッセージはデラックスタッチパッドの画面上に表示され、操作が無効状態にある理由が確認できます。ヘルプメッセージの詳細については、www.a-dec.comのドキュメントライブラリにある規制情報、仕様書、および保証書(部品番号(P/N) 86.0221.05)を参照してください。

図114. A1/A2ボタン



張地とカバーの取り付け



ヒント カバーと張地を取り付ける前に、装置の機能と取り付けた各モジュールの設定のすべてをテストしてください。

チェアとフロアボックスのカバー

1. チェアを一番上の位置まで上げます。
2. ストッププレートカバーをリフトアームのピンに取り付けます (図115を参照)。
3. サポートシステムがチェアに取り付けられていない場合は、チェアの背板カバーを取り付け位置に嵌め込んでください。
4. リフトアームタブに嵌め込んでリフトアームカバーを取り付けます。
5. 2本のネジを使ってポンプカバーを取り付けます。
6. フロアボックスカバーを取り付け位置に嵌め込みます。

正面取付部カバー

1. 2本のネジを使って支柱カバーを取り付けます (図116を参照)。
2. フレックスアームに再度ナックルカバーを取り付けます。
3. フレックスアームに再度トップカバーを取り付けます。
4. ブラケットにチェア下側のカバーをスライドして取り付けます (図117を参照)。
5. カバーをチェアの上骨組みの取り付け位置に嵌め込みます。

図115. リフトアームとフロアボックスカバーを取り付ける

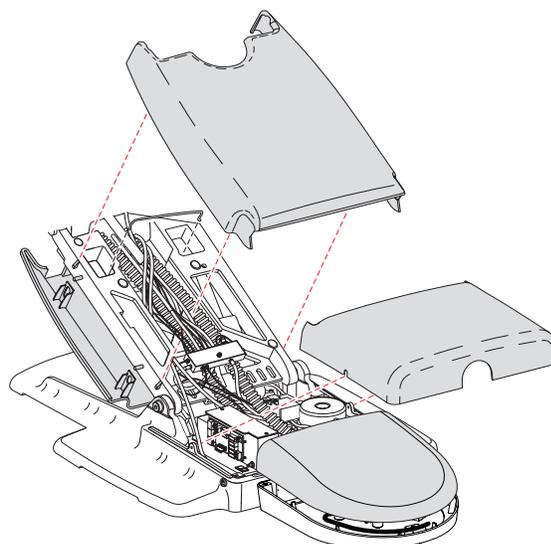
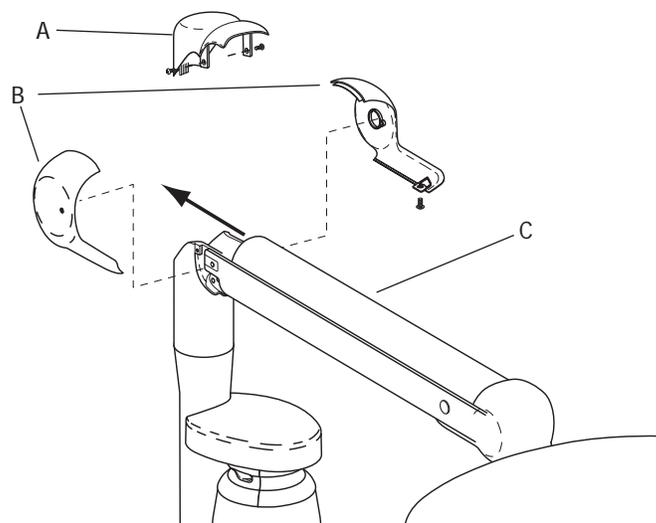
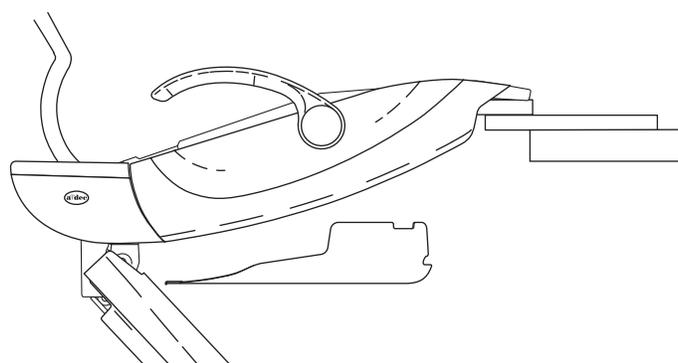


図116. 支柱カバーを取り付ける



(A) 支柱カバー、(B) ナックルカバー、
(C) フレックスアームのトップカバー

図117. 下側のカバーを取り付ける



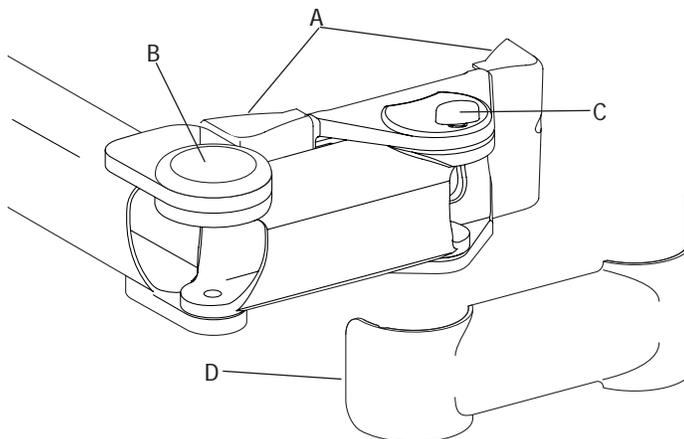
モニターアームカバー

モニターがサポート側に取り付けられ、ライトをシステムに取り付けられない場合は、支柱カバーを取り付けます。

サポートシステムカバー

1. 付属のネジでサポートリンクカバー (A) を取り付けます (図118を参照)。
2. サポートリンクベアリング (B) カバーを締め付けます。
3. サポートリンクと共にロックノブ (C) をチェアに対して直角に締め付けます。
4. サポートリンクカバー (D) を取り付けます。
5. まだ取り付けしていない場合は、リミットスイッチチューブの端をサポートアームの切り込みに沿って挿入し、サポートアームのエンドキャップを取り付けます。
6. サポートセンターカバーをパチンと留めます。サポートリンクを歯科助手用器具と共に取り付ける場合は、2個のサポートリンクエンドキャップを取り付けます。

図118. サポートリンクカバーを取り付ける



(A) 左右のサポートリンクカバー、(B) ベアリングカバー、(C) ロックノブ、(D) サポートリンクカバー

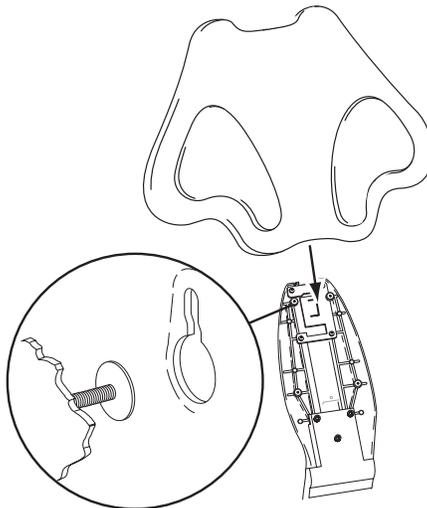
背板張地

チェアの背板を上げ、座部を上げた位置にセットします。背板張地を取り付けるには、クッションのキーホールを大きなファスナーヘッドにセットして取り付け位置にパチンと留まるまで押し付けます (図119を参照)。



注 大きいヘッドファスナーは緩めないでください。

図119. 背板張地を取り付ける



ヘッドレストの張地



注 ヘッドレストプレートにネジとリングは、プレートが滑り落ちるのを防ぎ、かつヘッドレストの張力メカニズムが無効になるのを防ぎます。ネジとリングを取り外す場合は、白い張力プレートが滑り落ちないように注意してください。

1. ヘッドレストプレートを回転して両方のネジ穴が使用できるようにします。
2. ヘッドレストクッションをヘッドレストプレートを通してスタンドオフに達することができるようセットします。
3. 上部ネジを取り付けます。まだ締めないでください。
4. 底ネジを取り付けます。
5. 両方のネジを完全に締め込みます。

シートの張地



警告 チェアを修理する前にシート張地を外します。チェアの下部を検査するため座面を上げるとき、チェアのフレームを固定するためにシート張地クリップに依存しないでください。

1. 張地を取り付ける場合、チェアのキャリッジの下部のシート張地の後端に2本のフックをセットします。
2. 張地を取り付け位置にしっかり嵌め込まれるまで押し付けます。
3. トウボード先端を、ロックが座部フレームに行きわたるまで押し下げます。
4. ロックにクリップを挿入します。

図120. ヘッドレストの張地を取り付ける

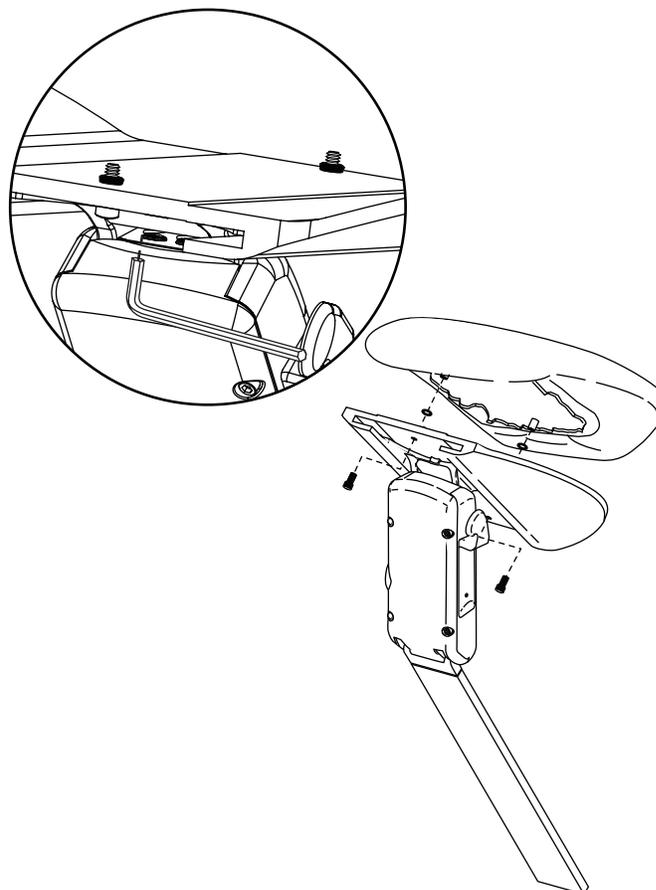
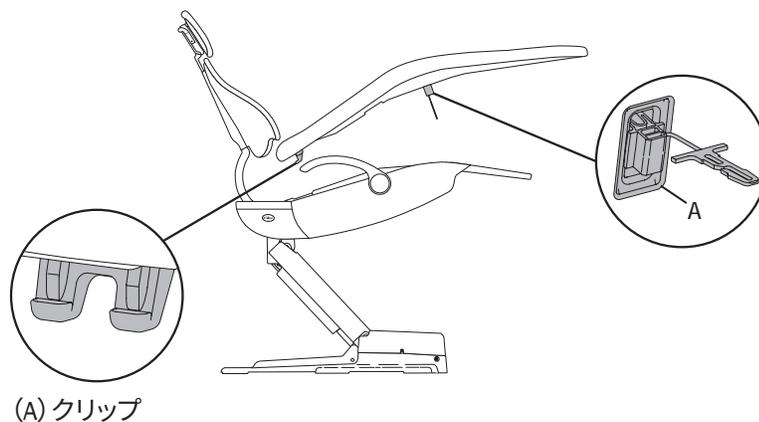


図121. シートの張地を取り付ける



(A) クリップ

規制に関する情報

当局から指定された規制に関する情報は、『規制情報、仕様、および保証使用方法』（部品番号 (P/N) 86.0221.05) に記載されています。この文書は、www.a-dec.comのドキュメントライブラリから入手できます。

本書で取り扱う機種とバージョン

機種	バージョン	説明
511	A	デンタルチェアー
532、533	A	デリバリーシステム
561	A	スピットン
571	A	歯科ライト
581	A	モニターマウント

Loctite® は、Henkel Corporationの登録商標です。

Lubriplate® は、Lubriplate Lubricants Co.の登録商標です。



A-dec本社

2601 Crestview Drive

Newberg, OR 97132 USA

電話: 1.800.547.1883 米国/カナダ国内

電話: 1.503.538.7478 米国/カナダ国外

ファックス: 1.503.538.0276

www.a-dec.com

A-dec Inc.は、市販性の暗黙的な保証や特別な目的への適用を含む(ただしこれに限定されない)、この文書の内容に関する保証を一切行わないものではありません。